

# SharePoint 自習書シリーズ with AvePoint DocAve

## SharePoint Server 2007/2010 コンテンツ ライフサイクル管理 手順書

---



バックアップ&リカバリー  
管理  
展開と複製  
ストレージ最適化  
テストとレポート  
アーカイブとコンプライアンス  
SharePoint への移行

#### 著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。AvePoint は、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途 AvePoint のライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

# はじめに

---

## 1. 目的

本書は Microsoft Office SharePoint Server 2007/ Microsoft SharePoint Server 2010（以下、SharePoint）で、ユーザーがコンテンツライフサイクル管理の計画および設定が出来るよう、製品の基本概要と設定手順について記載しています。

## 2. 対象製品

AvePoint DocAve 5

## 3. 前提条件

SharePoint Server でファーム環境を構築するには Active Directory 環境が必須になります。より実践に近い環境での学習を行うため、当自習書では Active Directory 環境でのファーム構成の SharePoint Server を前提としています。本書は SharePoint に関する基本知識があり、DocAve の管理者を対象として記載しています。

## 4. 用語

本ドキュメントの中で使用している略語の正式名称はそれぞれ以下の通りです。

略語	説明
AD	Active Directory
SharePoint	Microsoft Office SharePoint Server 2007
WSS	Windows SharePoint Services 3.0
DocAve	DocAve ソフトウェアプラットフォーム (ドックアップ)
DocAve 管理センター	DocAve 管理センター for SharePoint
DocAve コンテンツマネージャー	DocAve コンテンツマネージャー for SharePoint
DocAve アーカイバ	DocAve アーカイバ for SharePoint の略称

## 変更履歴

---

バージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.0	2010年6月25日	初版リリース

# 目次

SharePoint Server 2007/2010 .....	1
コンテンツ ライフサイクル管理 手順書 .....	1
はじめに .....	3
変更履歴 .....	4
目次 .....	5
第 1 章    コンテンツ管理上の課題 .....	7
1.1. 要件の概要 .....	8
第 2 章    コンテンツライフサイクルの考え方 .....	9
2.1. SharePoint のアーキテクチャー .....	10
2.2. コンテンツライフサイクル管理の考え方 .....	11
2.2.1. コンテンツライフサイクル管理の目的 .....	11
2.2.2. コンテンツライフサイクル管理の考え方 .....	12
第 3 章    サンプル環境 .....	13
3.1. サーバー構成 .....	14
3.2. ソフトウェア構成 .....	15
3.3. サイト構成 .....	16
3.4. 環境の確認 .....	18
3.4.1. EBS プロバイダの有効化 .....	18
3.4.2. エンドユーザー アーカイバのインストールと設定 .....	19
第 4 章    実践的なコンテンツライフサイクル管理 .....	22
4.1. アイテムレベルやリスト&ライブラリレベルでのライフサイクル管理 .....	23
4.1.1. アイテムレベルやリスト&ライブラリレベルのライフサイクル例 .....	23
4.1.2. 事前準備 .....	24
4.1.3. コンテンツライフサイクルプランの作成 .....	30
4.2. サイトレベルのライフサイクル管理 .....	35
4.2.1. 事前準備 .....	36
4.2.2. ルールベースで行うサイトライフサイクル管理 .....	41
4.2.3. URL ベースで行うサイトライフサイクル管理 .....	47
4.3. サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたライフサイクル管理 .....	51
4.3.1. サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたライフサイクル管理例 .....	51
4.3.2. 事前準備 .....	51
4.3.3. コンテンツライフサイクルプランの作成 .....	57
4.4. エンドユーザーによるアーカイブ .....	63
第 5 章    その他の機能概要 .....	68
5.1. コンテンツライフサイクル管理の設定 .....	69
5.1.1. データを保管するデバイスの構成 .....	69
5.1.2. アーカイブデータを保持する期間の指定 (=保持ポリシー) .....	80
5.1.3. アーカイブを実行する条件の設定 (プラン) .....	81
第 6 章    リストアの実行 .....	109
6.1. リストアの考え方 .....	110
6.2. リストアの実施 .....	110

6.2.1. 低コストディスク移動状態からの復元 .....	110
6.2.2. 論理削除状態からの復元.....	112
第7章 付録.....	115
7.1. 設計シート.....	116

## 第1章 コンテンツ管理上の課題

---

本章では、SharePoint に関する一般的なコンテンツ管理要件について説明します。

## 1.1. 要件の概要

---

SharePoint の活用度が高まると、ユーザーにより大量なコンテンツがアップロードされるようになります。コンテンツの量が多くなってくると、必要なコンテンツとそうでないコンテンツが混在し、手動によるコンテンツの整理は難しくなります。必要でないコンテンツを整理せずに放置しておくと、SharePoint は必要でないコンテンツでいっぱいになり、SharePoint が「ごみ箱」化してしまいます。それに加え、SharePoint 上に大量のコンテンツが存在すると SharePoint が使用している SQL データベースの容量が増大し、ストレージコストが増大したり、データベースのパフォーマンスを低下させ SharePoint のサイトを使用するユーザーの体感にも影響を与えてしまったりします。以上のような問題を解決するために、コンテンツライフサイクルの適切な管理が必要となります。



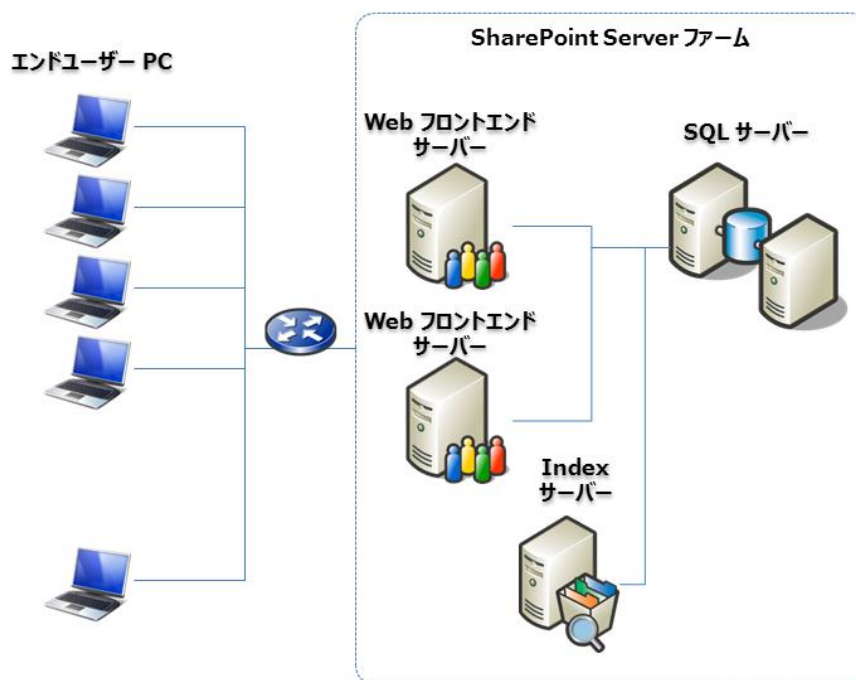
## 第2章 コンテンツライフサイクルの考え方

---

本章では、SharePoint におけるコンテンツライフサイクル管理の必要性について説明します。

## 2.1. SharePoint のアーキテクチャー

SharePoint は文字通り、エンドユーザーが情報を共有するための場所です。日々の業務の中でユーザーが大量のコンテンツを投入してゆく場所というのが SharePoint の役割です。アーキテクチャー面では、エンドユーザーが作成するいわゆるユーザーデータは、RDBMS である SQL Server の中に蓄積されてゆきます。SQL Server に利用するようなハイエンドディスクは高価ですし、ファイルシステムと異なりオーバーヘッドもあるため消費されるディスク領域も多く、ユーザーによる活用度が向上するとストレージコストが急激に増大します。さらに、ユーザーが作成する、Word / Excel / PPT をはじめとするようなバイナリファイルも RDBMS のテーブルの中に保管されるアーキテクチャーをとっているため、データ容量の増大の結果、パフォーマンスの低下も懸念されます。

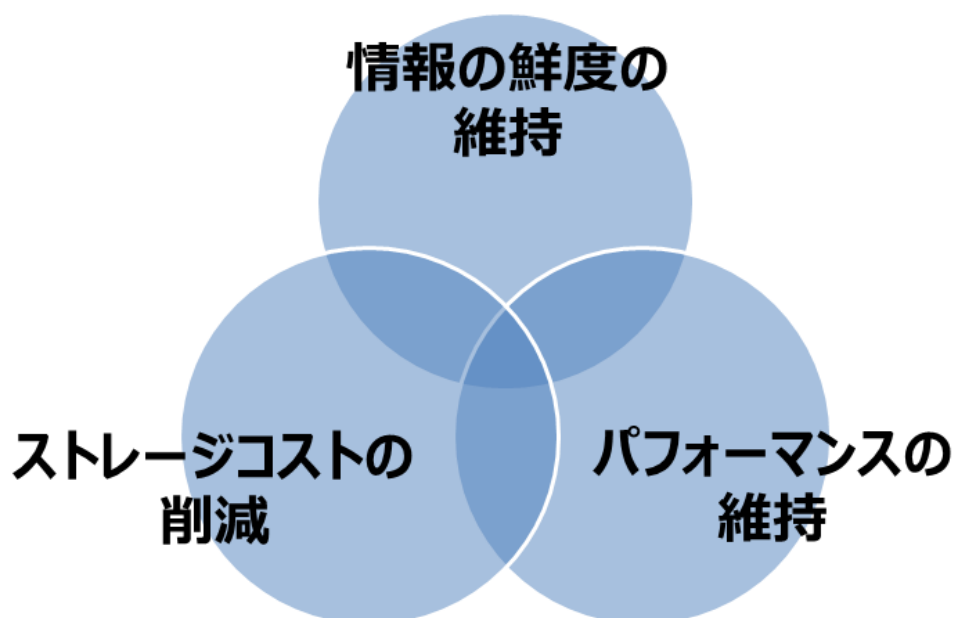


## 2.2. コンテンツライフサイクル管理の考え方

### 2.2.1. コンテンツライフサイクル管理の目的

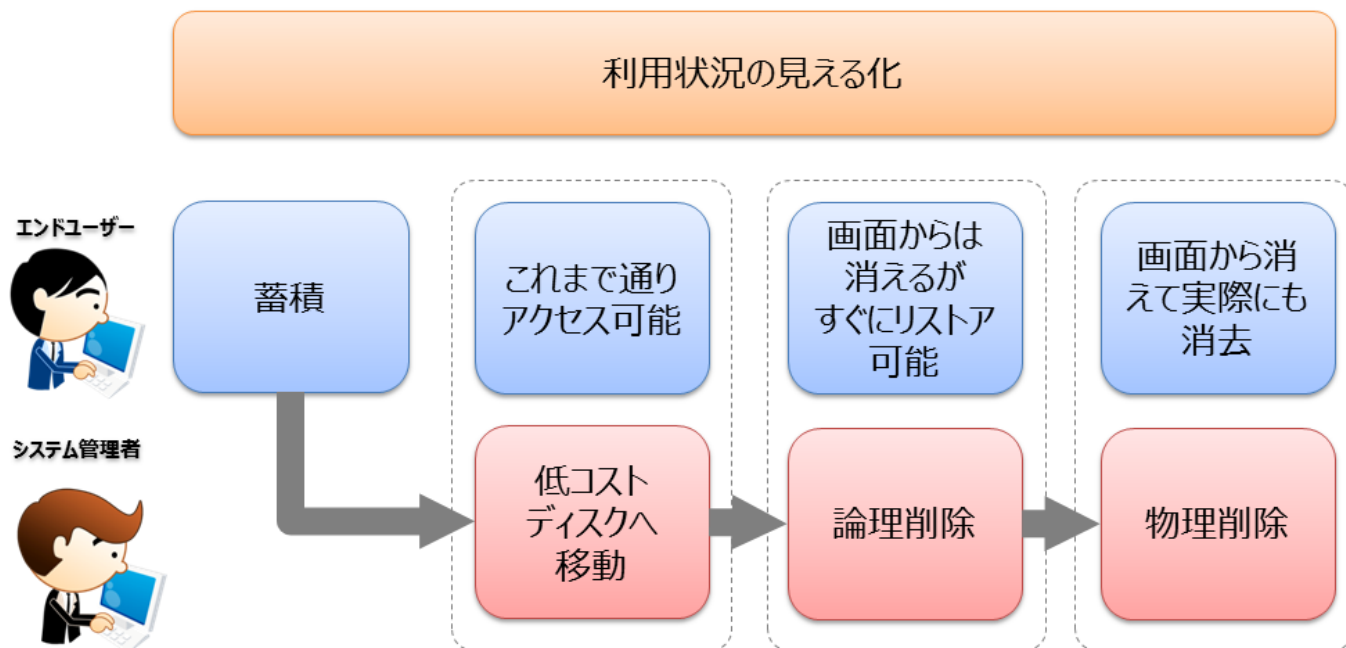
SharePoint 標準では、サイト コレクション、サイト、リスト、ライブラリ、バージョンなどの様々なコンテンツが容易に作成可能ですが、コンテンツを削除するための実用的な仕組みは用意されていません。そのため、コンテンツの作成や蓄積はできますが、SharePoint 上には、不要なコンテンツが削除できずにコンテンツが蓄積されつづけます。その結果として、SQL データベースを圧迫し、ストレージコストの増大、パフォーマンス劣化を引き起こす可能性があります。情報管理ポリシーにより有効期限などを設定し、コンテンツを削除することは可能ですが、いきなり物理削除となるため、ユーザーからクレームが生じる可能性があります。

## コンテンツライフサイクル管理の目的



## 2.2.2. コンテンツライフサイクル管理の考え方

SharePoint を利用する上で求められる一般的なコンテンツライフサイクル管理要件は以下の通りです。



### (1) 作成、蓄積

ユーザーの要望に合ったサイトコレクションを SharePoint 管理者が作成し、そのサイトコレクションに対してユーザーがコンテンツをアップロードすることによりコンテンツが蓄積されていきます。

### (2) 活用度の見える化

レポート機能により月間ダウンロード数などコンテンツの活用度を定量的に可視化し、重要でないコンテンツかどうかの判断が行える必要があります。

### (3) 低コストストレージへの移動

蓄積したコンテンツの中であまり使用されていないと思われるコンテンツや重要度が低いと思われるコンテンツを SQL データベースから低コストのストレージに自動的に移動させる必要があります。低コストストレージに移動した後も、ユーザーからはこれまでと変わらない操作感でアーカイブ済みコンテンツにアクセスできる必要があります。

### (4) 論理削除

低コストストレージに保持されてから一定期間後、ユーザーからはその SharePoint のユーザーインターフェースからコンテンツを見えないようにします。一定期間、この状態で運用することによって、ユーザーが本当に必要とするデータとそうでないデータを峻別することが可能になります。この状態でもデータの实体は削除されず保持され、もしエンドユーザーからリクエストがあれば元通りに復旧してあげられる必要があります。

### (5) 物理削除 (同時にテープなどにバックアップ)

論理削除されてからの期間が一定期間を過ぎた場合、低コストストレージからアーカイブデータを物理削除するオペレーションを行います。一定期間利用されなかったことを理由に、それらのデータを物理的にも削除してしまいます。ただ、万が一のため、物理削除と同時に、テープなどの安価な記憶媒体に待避を行います。

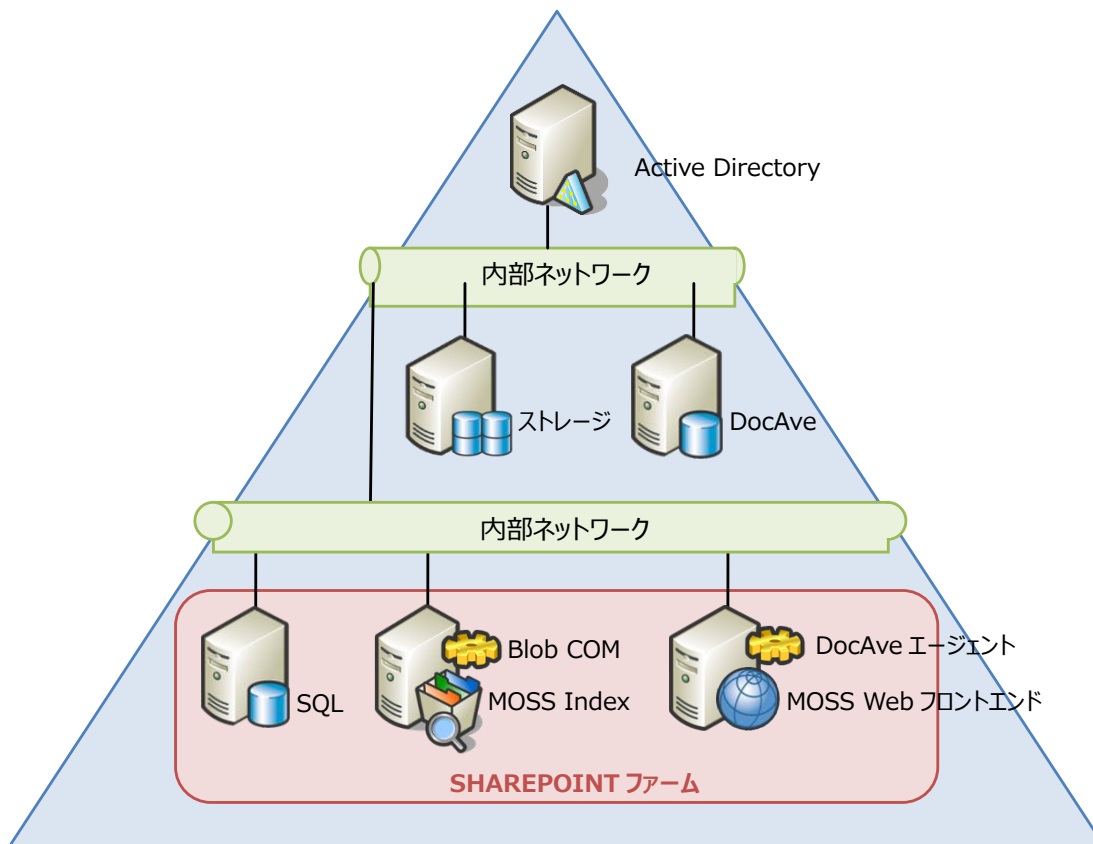
## 第3章 サンプル環境

---

本ドキュメントでコンテンツライフサイクル管理を紹介する際に使用するサンプル環境構成について説明します。

### 3.1. サーバー構成

ドメインコントローラ 1 台、SQL サーバー 1 台、SharePoint の Web フロントエンドサーバー 1 台、SharePoint の Index サーバー 1 台、DocAve サーバー 1 台、アーカイブデータ保存先のファイルサーバーが 1 台を同じドメイン環境に配置します。SharePoint はファーム構成でインストールします。



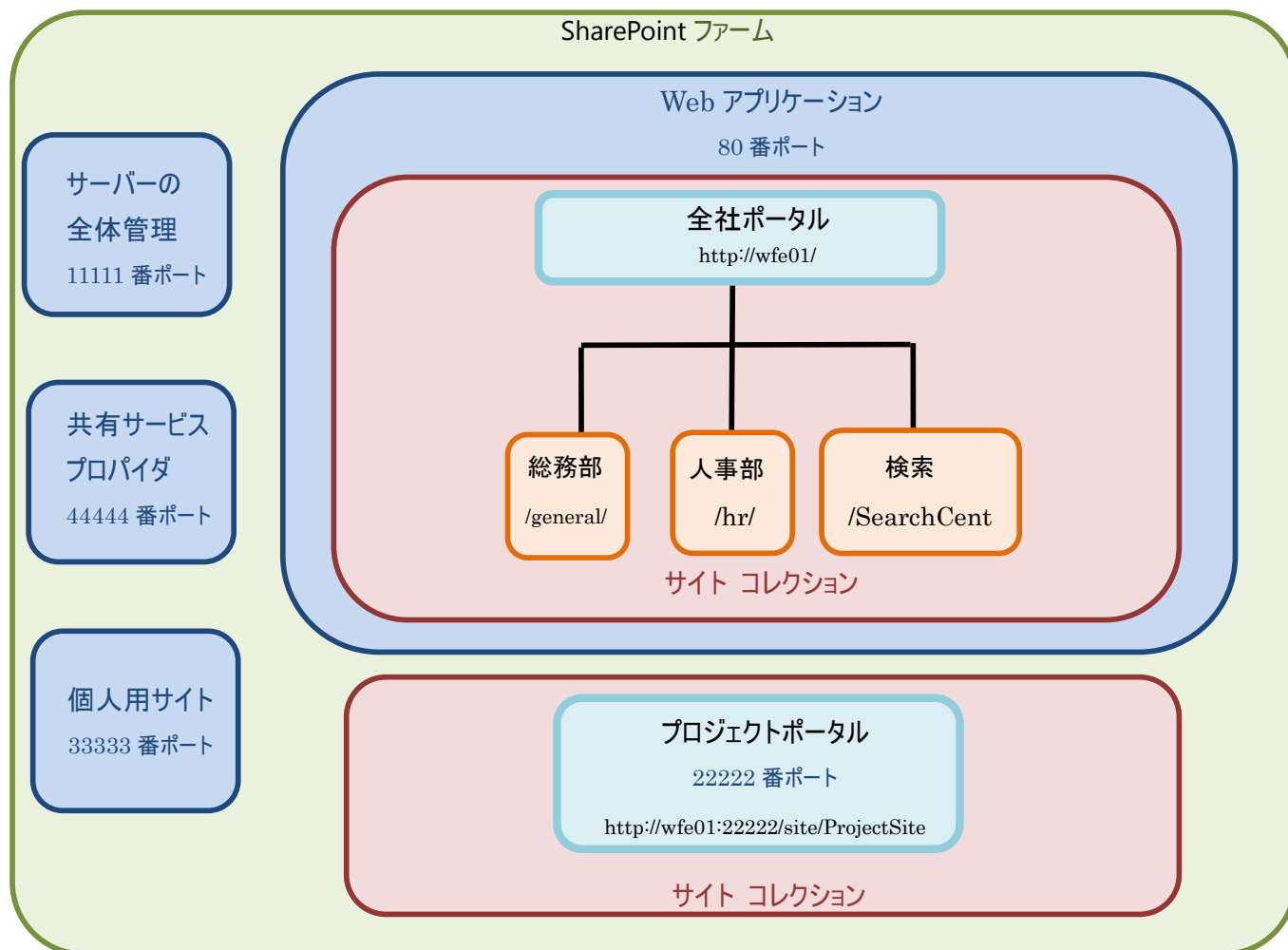
### 3.2. ソフトウェア構成

モデル環境を構成するサーバーにインストールされているソフトウェアは以下の通りです。

サーバー名	ソフトウェア
DC01	Windows Server 2003 R2 SP2 Enterprise Edition x64
SQL01	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64 .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft SQL Server 2008 Enterprise Edition x64
WFE01	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64 .NET Framework 3.5 SP1 Internet Information Service 7.0 Microsoft Office SharePoint Server 2007 Enterprise Edition SP2 DocAve エージェント
Index01	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64 .NET Framework 3.5 SP1 Internet Information Service 7.0 Microsoft Office SharePoint Server 2007 Enterprise Edition SP2 Blob COM
DocAve01	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64 DocAve マネージャー (コントロールサービス/Web サービス/メディアサービス)
File01	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition x64

### 3.3. サイト構成

ライフサイクル管理を実施する SharePoint のサイト構成は、「サーバーの全体管理」に 11111 番ポート、「共有サービスプロバイダー」に 44444 番ポート、「個人用サイト」に 33333 番ポートと「プロジェクトサイト」に 22222 番ポート、一般公開用サイトとして「ポータルサイト」に 80 番ポートを使用しています。また、ポータルサイトには「総務部」「人事部」「検索」サブサイトが存在し、各サイトに一般的なコンテンツを配置しています。プロジェクトサイトはユーザーが自由にサイト・コンテンツを作成できるサイトとして配置しています。





項目	URL
サーバーの全体管理	http://wfe01:11111/
SSP	http://wfe01:44444/
個人用サイト	http://wfe01:33333/
全社ポータル	http://wfe01/
総務部	/general/
人事部	/hr/
検索	/SearchCenter/
プロジェクトポータル	http://wfe01:22222/site/ProjectSite/

項目	種類	使用例
ポータルサイト	グループ作業ポータル	ポータルサイトのトップページ
お知らせ	お知らせ	全社員に対する連絡事項などを掲載
イベント	予定表	全社員に対して会社の予定を掲載
新しいお知らせ	コンテンツツクエリ	総務部、人事部のお知らせを閲覧可能
リンク	リンクリスト	全社員へ便利なサイト掲載
総務部	チームサイト	総務部用のポータルサイト
お知らせ	お知らせ	総務部内での連絡事項などを掲載
社内規定	ドキュメントライブラリ	会社の規定のドキュメントを掲載
各種申請書類	ドキュメントライブラリ	会社への申請用の書類を掲載
共有ドキュメント	ドキュメントライブラリ	総務部内でドキュメントを共有
人事部	チームサイト	人事部用のポータルサイト
お知らせ	お知らせ	人事部内での連絡事項などを掲載
共有ドキュメント	ドキュメントライブラリ	人事部内でドキュメントを共有
検索	検索センター	SharePoint に蓄積されたデータを検索

項目	種類	使用例
プロジェクトサイト	チームサイト	プロジェクトサイトのトップページ

## 3.4. 環境の確認

### 3.4.1. EBS プロバイダの有効化

DocAve アーカイバをインストールするには、SharePoint ファームの EBS プロバイダを有効にする必要があります。以下に、EBS プロバイダを有効にする手順について説明します。

#### (1) EBS プロバイダとは

SharePoint はバイナリファイルを SQL データベースに格納しますが、EBS プロバイダを使用することにより、ファイルベース ストレージに格納することができます。SQL サーバー以外のストレージにバイナリファイルを格納することにより、パフォーマンス低下や管理コスト増加の原因となる大容量ファイルによる負荷が大幅に軽減されます。

#### (2) EBS を利用するために必要な Blob COM のインストール

Web フロント エンド サーバー、および Index サーバーには Blob COM をインストールする必要があります。Blob COM は DocAve エージェントをインストールする際に一緒にインストールされますが、Blob COM のみでもインストールすることが可能です。

#### (3) EBS プロバイダの設定

1. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [設定] - [EBS プロバイダ設定] を選択し、EBS プロバイダ設定画面を開きます。



2. 現在の EBS の状態が無効である場合、[有効] をクリックし、EBS プロバイダを有効にします。

現在の EBS の状態: 無効

DocAve の提供する EBS 通信サービス プロバイダ "BLOB COM" はコネクタ、バイナリー ストアまたはアーカイバのアクセス先となるサーバーすべてにインストールされている必要があります。これには、Index サーバーや Web フロント エンド サーバー、および SQL データベース外に保存されたデータを取得する必要があるサーバーが含まれます。

サーバー	サービス	Blob Com のインストール
INDEX01	Office SharePoint Server Search	✓
SQL01	Windows SharePoint Services Database	✗
WFE01	Excel Calculation Services Office SharePoint Server Search Windows SharePoint Services Web Application サーバーの全体管理 Windows SharePoint Services Incoming E-Mail Windows SharePoint Services Search	✓

3. 処理が完了すると IIS を再起動してくださいというダイアログが表示されるので、[OK] をクリックします。



4. ファームに所属する全ての Web フロント エンド サーバー、及び Index サーバーで IIS の再起動を行い、EBS プロバイダの有効化処理は完了です。

### 3.4.2. エンドユーザー アーカイバのインストールと設定

※本項目の設定を進めるには、第 4 章で行う保持ポリシーと論理デバイスの設定を行う必要があります。

エンドユーザー アーカイブの機能を使用するとエンドユーザーが SharePoint 上からサイトやアイテムをアーカイブすることが可能です。エンドユーザー アーカイブの機能を使用するためには、エンドユーザー アーカイブの機能のインストールを行う必要があります。以下に、エンドユーザー アーカイブの機能のインストール手順について説明します。

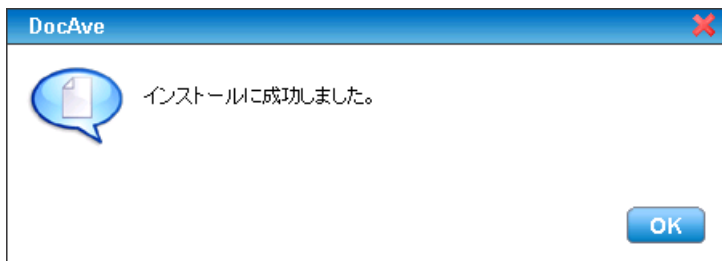
1. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [DocAve アーカイバ] - [設定] を選択し、DocAve アーカイバ設定画面を開きます。



2. [機能のインストール] をクリックし、エンドユーザー アーカイブの機能をインストールします。



3. インストールに成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして、エンドユーザー アーカイブの機能のインストールは完了です。



4. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [DocAve アーカイバ] - [設定] を選択し、DocAve アーカイバ設定画面を開きます。



5. エンドユーザー アーカイブの設定を行い、[適用]をクリックします。

エンドユーザー アーカイブの機能設定:

保持: 6ヶ月保持  
 論理デバイス: 1つを選択

データ構成:  圧縮  暗号化  
 SharePoint エージェント  SharePoint エージェント  
 メディア サービス  メディア サービス

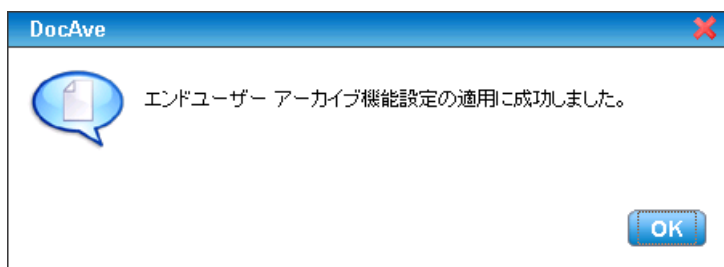
自動的に全文検索インデックスを生成する

注意: これらの設定は適用されるまでエンドユーザー アーカイブの機能は使用できません。

**適用**

項目	説明			
保持	保持ポリシーを設定します。			
論理デバイス	論理デバイスを設定します。			
データ構成	<table border="1"> <tr> <td>圧縮</td> <td rowspan="2">データの圧縮と暗号化を行うかを設定します。また、設定を行う場合には、メディアエージェントか SharePoint エージェントどちらに適用するかが選択できます。既定では、[圧縮]と[暗号化]が無効になっていることに注意してください。</td> </tr> <tr> <td>暗号化</td> </tr> </table>	圧縮	データの圧縮と暗号化を行うかを設定します。また、設定を行う場合には、メディアエージェントか SharePoint エージェントどちらに適用するかが選択できます。既定では、[圧縮]と[暗号化]が無効になっていることに注意してください。	暗号化
圧縮	データの圧縮と暗号化を行うかを設定します。また、設定を行う場合には、メディアエージェントか SharePoint エージェントどちらに適用するかが選択できます。既定では、[圧縮]と[暗号化]が無効になっていることに注意してください。			
暗号化				
自動的に全文検索インデックスを作成する	自動的に全文検索インデックスを作成する場合は、チェックを付けます。			

6. 適用に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了して、エンドユーザー アーカイブの設定は完了です。



## 第4章 実践的なコンテンツライフサイクル管理

---

本章では、SharePoint での実践的なコンテンツライフサイクル管理の方法について説明します。

## 4.1. アイテムレベルやリスト&ライブラリレベルでのライフサイクル管理

アイテムやリスト、ライブラリレベルでもアーカイブを行うことができます。アイテムやリスト、ライブラリレベルのアーカイブでは、会社のポータルサイトなどサイト自体は永続的に使用されるが、内容の更新が頻繁にあるようなサイトで、古くなったコンテンツに対してのみアーカイブをするなどでの利用が想定できます。ここでは、例としてアイテムレベルでのアーカイブについて説明します。

パターン	利用用途
アイテムレベルやリスト&ライブラリレベルのライフサイクル管理	全社ポータルや部門ポータルなど、サイト自体は長期間存在することが見込まれるが、時間をへるとその中のコンテンツが陳腐化していくようなサイトに対して利用するのが効果的。

### 4.1.1. アイテムレベルやリスト&ライブラリレベルのライフサイクル例

最後のアクセスから180日間アクセスがないドキュメントをアーカイブするドキュメントライブラリを例にしたライフサイクル例を以下に記述します。

項目	内容	参照ページ
① ドキュメントの投稿	ドキュメントライブラリにドキュメントを投稿。	—
② ユーザーの利用	ドキュメントのユーザー利用。ドキュメントの編集、参照、削除、移動など。	—
③ ドキュメントのアーカイブ実行(ルールベース)	スケジュールにしたがってアーカイブが実行され、最後のアクセスから180日間アクセスがない場合、アーカイブデータは低コストディスクに移動される。	—
④ 論理削除	低コストディスクに移動されて1年後、SharePoint上に作成されたスタブが削除される。(アーカイブデータの実体は低コストディスクに保存されたまま。)	—
⑤ 物理削除	アーカイブデータの保持期間が3年経つと、低コストディスクから自動で物理削除される。	—
⑥ アーカイブされたコンテンツの復元	アーカイブしたコンテンツの復元要望が出た場合、低コストディスクからリストアすることが可能です。	Page.114「6.2 リストアの実施」

## 4.1.2. 事前準備

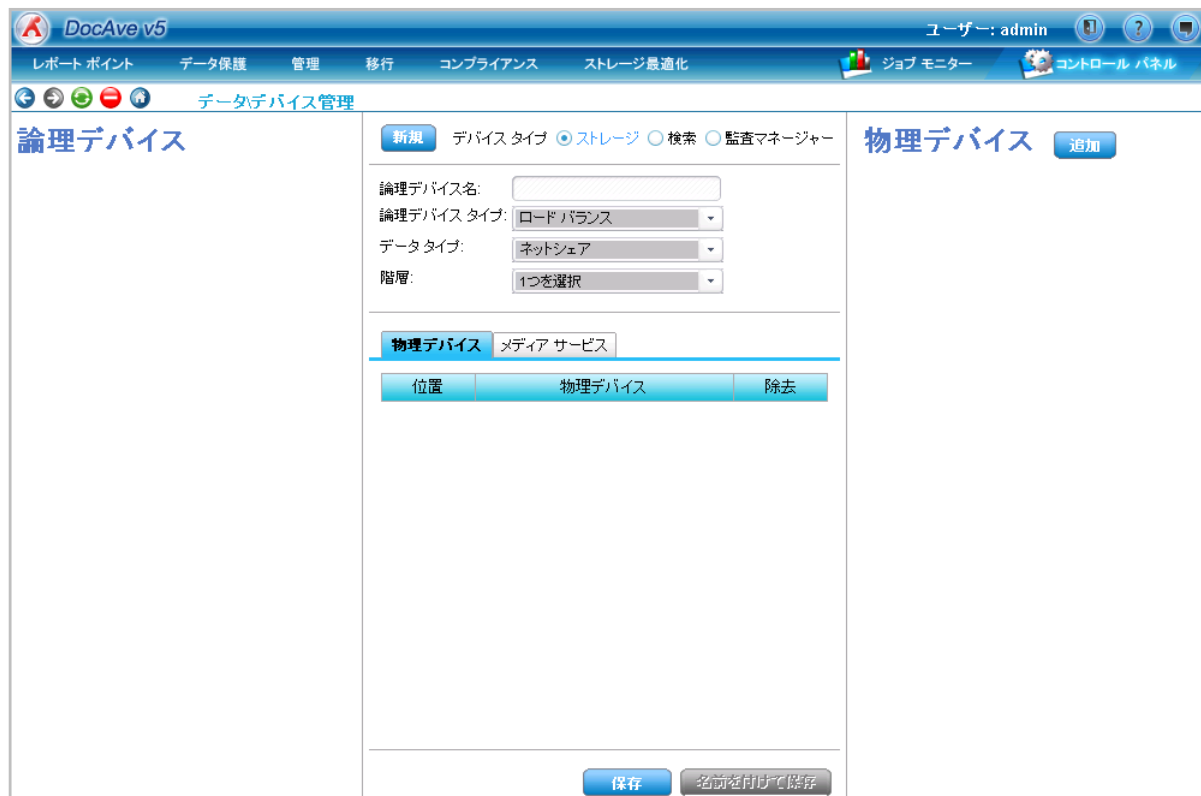
### (1) アーカイブ先ストレージの設定

アーカイブを行う前にアーカイブファイルを格納するデバイスの設定を行う必要があります。以下にデバイス構成の設定手順について説明します。

1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [デバイス管理] を選択し、デバイス管理画面を開きます。



2. 物理デバイスを作成します。データタイプに "ネットシェア" を選択し、[物理デバイス] 欄の [追加] をクリックします。

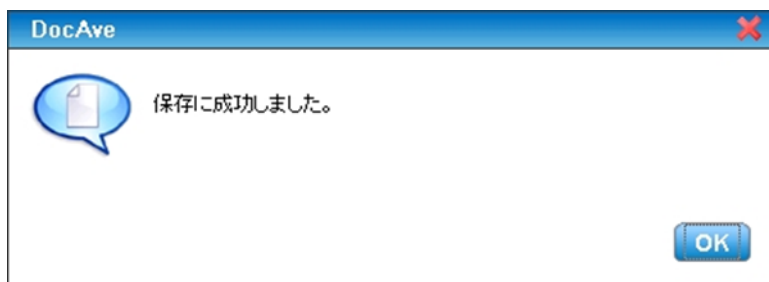




3. 物理デバイスの設定を行います。値を入力後、[保存] をクリックし、物理デバイス設定を保存します。

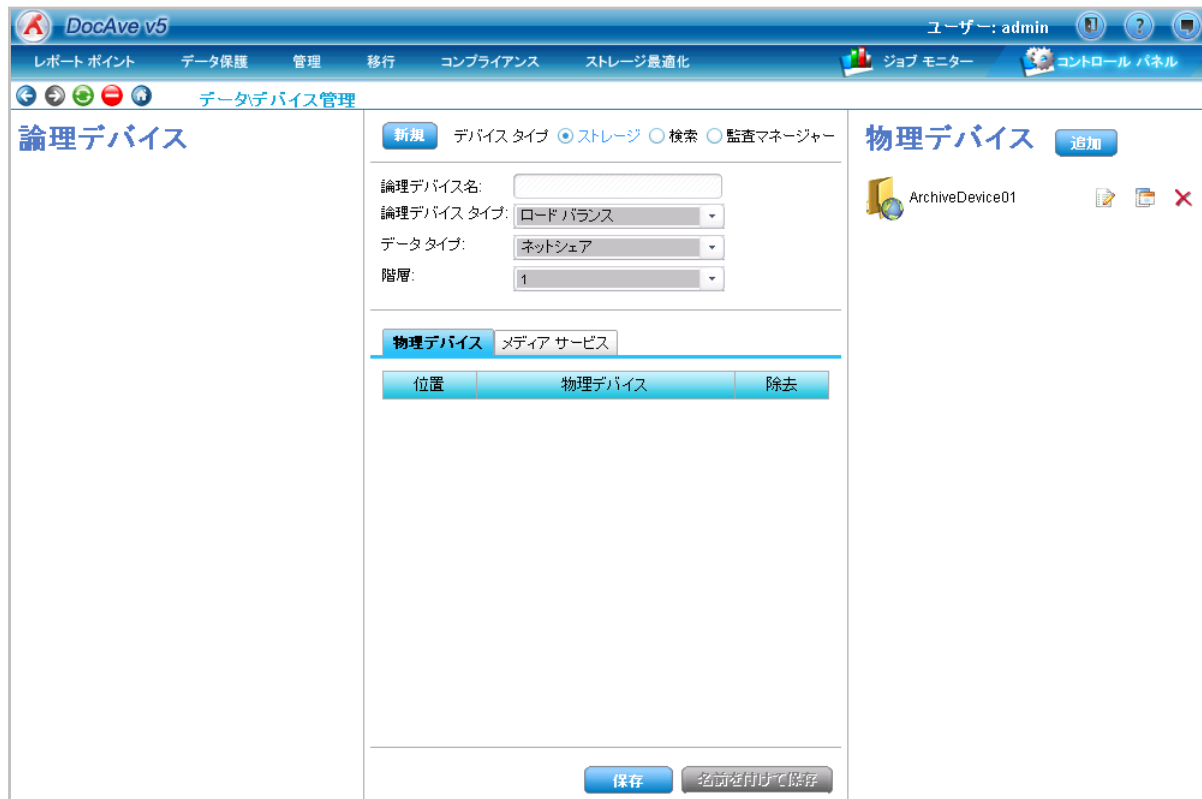
項目	設定値
物理デバイス	ArchiveDevice01/ ArchiveDevice02
パス	¥¥docave01¥c\$¥archive01 ¥¥docave01¥d\$¥archive01
階層	1/2
ドメイン	example
ユーザー	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザー
パスワード	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザーのパスワード

4. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



5. 手順 2 ~ 手順 4 を繰り返し、2 つ目の物理デバイスを作成します。

6. 物理デバイスを使用した論理デバイスを作成します。[デバイスタイプ] の “ストレージ” を選択します。

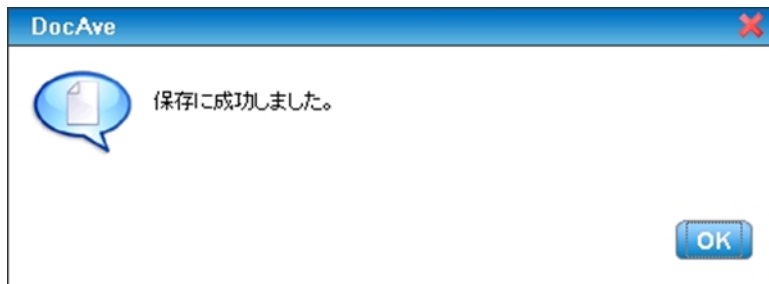


7. 論理デバイスの設定を行います。設定値を入力し、[物理デバイス] タブ内に、アーカイブデータ格納場所として、手順 5 までに作成した物理デバイスを [物理デバイス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。

項目	設定値
論理デバイス名	ArchiveDevice01/ ArchiveDevice02
論理デバイス タイプ	ロードバランス
データタイプ	ネットシェア
階層	1/2

8. [メディアサービス] タブも同様に、アーカイブ処理実行場所として、[メディアサービス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。[保存] をクリックし、論理デバイス設定を保存します。

9. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



10. 手順 6 ~ 手順 9 を繰り返す、2 つ目の論理デバイスを作成します。

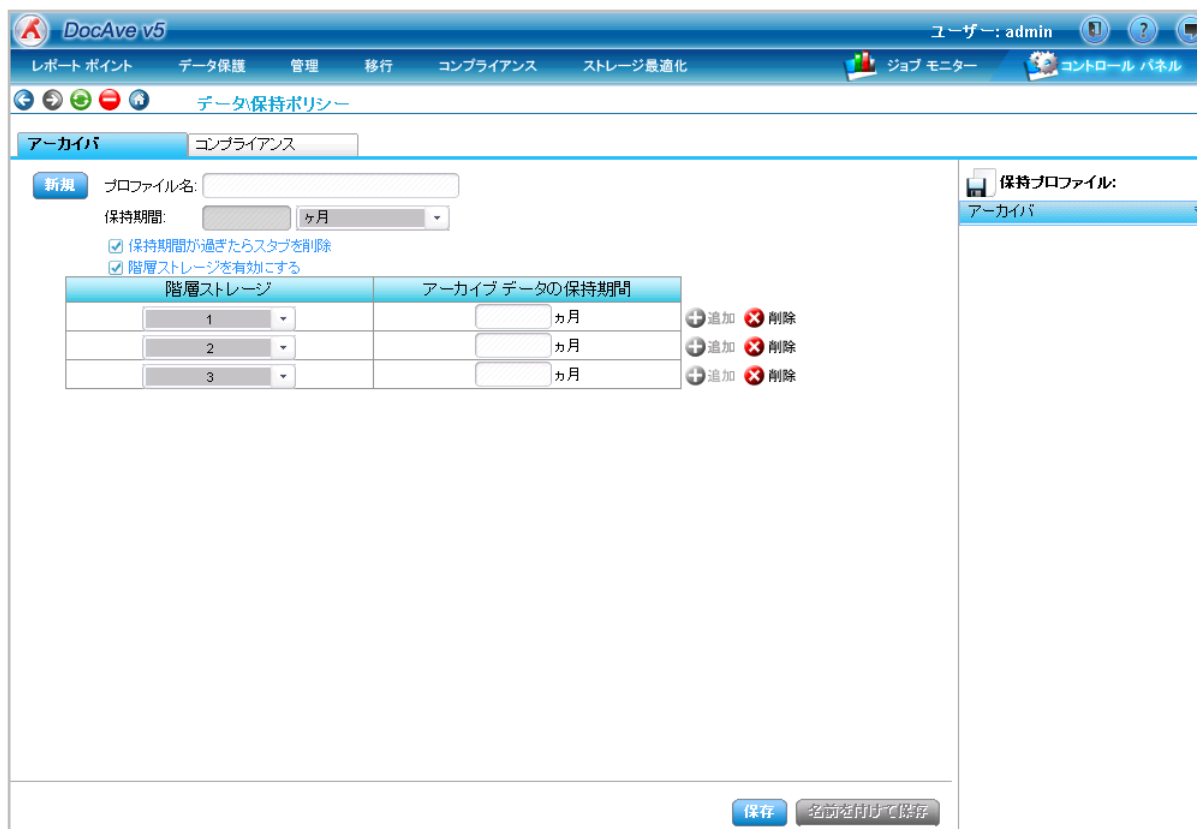
(2) 物理削除をするまでの保持期限の設定

アーカイブを行う前にアーカイブされたコンテンツの保持期間などの保持ポリシーを設定する必要があります。以下に保持ポリシーの設定手順について説明します。


1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [保持ポリシー] を選択し、保持ポリシー画面を開きます。



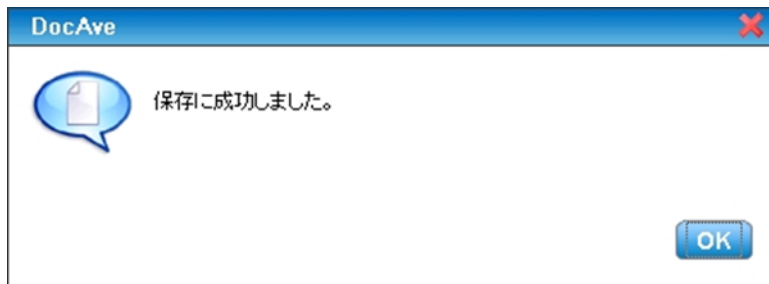
2. 保持ポリシーを作成します。保持ポリシーの設定を行い、[保存] をクリックします。



項目	説明	設定値	
プロファイル名	保持ポリシーのプロファイル名を入力します。	ArchiveDataPolicy01	
保持期間	アーカイブしたコンテンツの保持期間を設定します。 [階層ストレージを有効にする] にチェックが付いている場合は設定できません。	—	
保持期間が過ぎたらスタブを削除	保持期間が過ぎた際にスタブを削除する場合はチェックを付けます。	有効	
階層ストレージを有効にする	階層ストレージを有効にする場合はチェックを付けます。	有効	
階層ストレージの設定	階層ストレージ	[階層ストレージを有効にする] にチェックが付いている場合に表示されます。保持するストレージの階層を設定します。	1/2
	アーカイブデータの保持期間	[階層ストレージを有効にする] にチェックが付いている場合に表示されます。保持している階層のストレージにアーカイブデータを保持する期間を設定します。	12/36

※  追加 をクリックすると [階層ストレージの設定] の行を追加することができ、階層ストレージの設定を行うことができます。階層化ストレージを設定するには、階層ごとの論理デバイスを設定しておく必要があります。

3. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



#### 4.1.3. コンテンツライフサイクルプランの作成

アーカイブを行うファームの範囲、アーカイブ対象となるコンテンツを計画します。以下に、プラン作成の手順について説明します。

1. アーカイブするコンテンツを確認



2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [アーカイバ] - [プラン ビルダー] を選択し、プラン ビルダー画面を開きます。



3. [モード] で “ルールベース” を選択します。



4. 範囲を指定します。[範囲] のファーム、及びエージェントグループを設定し、アーカイブする範囲としてドキュメントをアーカイブする範囲を指定します。




5. アーカイブの設定を入力します。

新規 プラン名:  モード: ルールベース

設定 ルール 範囲フィルタ

ストレージ \*論理デバイス: 1つを選択  
 \*保持ポリシー: 既定保持プロファイル  
 \*必須フィールド

データ構成  
 レポート  
 高度

スケジュール:  
 開始時刻:    
 間隔:  なし

項目		設定値
プラン名		ItemRuleArchive01
論理デバイス		先で作成した論理デバイスを設定
保持ポリシー		先で作成した保持ポリシーを設定
スケジュール	開始時刻	2010/4/2 22:00
	間隔	1 週間



6. [ルール] タブをクリックし、ルールの設定を行います。

項目	設定例	
サイト コレクション	無効	—
サイト	無効	—
リスト	無効	—
アイテム	無効	—
アイテムバージョン	無効	—
ドキュメント	有効	アクセス日時が今から 180 日前のデータ
ドキュメント バージョン	無効	—
添付ファイル	無効	—

7. [範囲フィルタ] タブをクリックし、[フィルタリングなし] にチェックが付いてないことを確認します。

8. [保存] をクリックします。

9. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



10. ルールベースでのプランの作成は終了され、スケジュールに従ってアーカイブが実行されます。

11. アーカイブされたことを確認。アーカイブされたドキュメントのアイコンが変更されています。



## 4.2. サイトレベルのライフサイクル管理

DocAve アーカイバを利用することで、サイトレベルのライフサイクル管理を行うことができます。アーカイブ対象を条件で絞り、スケジュールして自動的にアーカイブを行うルールベースのアーカイブと、URL を指定して手動でアーカイブする URL ベースのアーカイブの 2 通りがあります。

ルールベースのアーカイブは、サイト名やサイトの更新頻度やサイズなどの条件によって、アーカイブ対象を絞ってアーカイブすることができます。揮発性のプロジェクト専用サイトや定期的に立ち上がる企画のために作成されるサイトなど、運用ルールに基づいてたびたび新規作成されるが、一定の時期を過ぎると更新がなくなるようなサイトに対して使用します。

URL ベースのアーカイブは、サイトとそのサイトに含まれるサブサイトやリスト、アイテムすべてをアーカイブします。ルールベースとは違い、アーカイブ対象を絞ったり、スケジュールを作成したり、プランを保存したりできません。組織変更によってなくなったり分割されたりする部署専用サイトや臨時に作成されたサイトなど、ルールベースで作成したアーカイブプランに基づかないサイトをその都度手動でアーカイブを実行します。以下より、一般的に想定されるライフサイクルの例を挙げ、ルールベースと URL ベースのサイトのアーカイブ プラン作成例を記載します。

パターン	利用用途
URL ベースのアーカイブ	組織変更などのイベントが発生した際に廃止になった部門のサイトをアーカイブするなどの場合や、退職したユーザーの個人用サイトをアーカイブする場合などには、URL を指定してアーカイブをする運用が向いています。
ルールベースのアーカイブ	ユーザーが業務で作成しているプロジェクトサイトのようなサイトに関しては、最終アクセス日など、何らかの条件をベースにルールベースで自動的にアーカイブを行う運用が向いています。

## 4.2.1. 事前準備

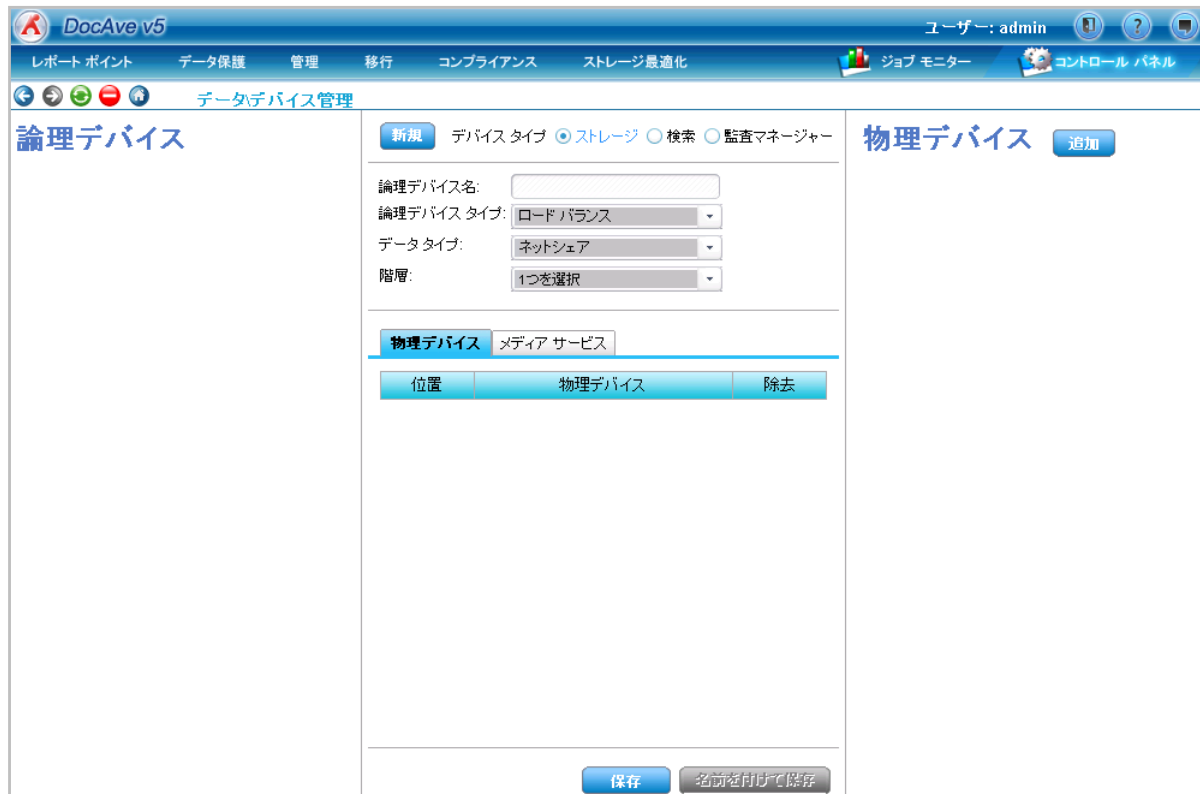
### (1) アーカイブ先ストレージの設定

アーカイブを行う前にアーカイブファイルを格納するデバイスの設定を行う必要があります。以下にデバイス構成の設定手順について説明します。

1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [デバイス管理] を選択し、デバイス管理画面を開きます。



2. 物理デバイスを作成します。データタイプに "ネットシェア" を選択し、[物理デバイス] 欄の [追加] をクリックします。



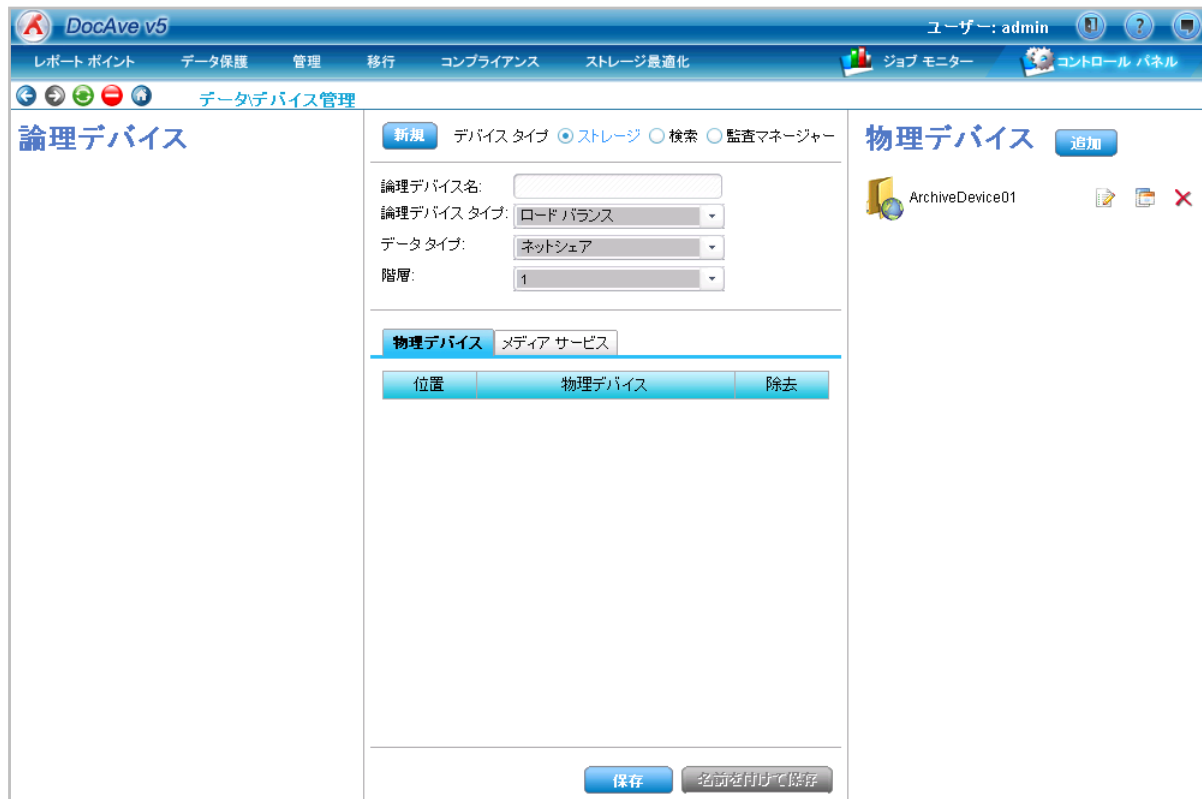
3. 物理デバイスの設定を行います。値を入力後、[保存] をクリックし、物理デバイス設定を保存します。

項目	設定値
論理デバイス	ArchiveDevice01
パス	¥¥docave01¥c\$¥¥archive01
階層	1
ドメイン	example
ユーザー	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザー
パスワード	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザーのパスワード

4. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



5. 物理デバイスを使用した論理デバイスを作成します。[デバイスタイプ] の "ストレージ" を選択します。

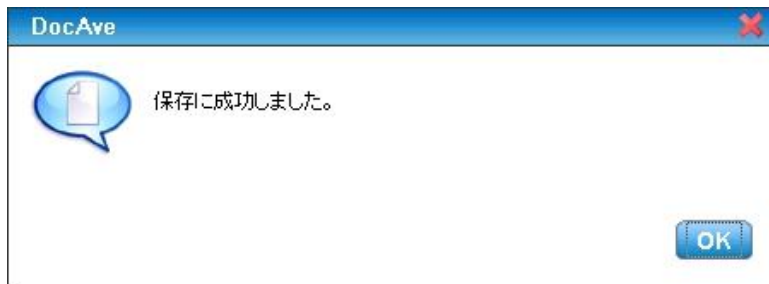


6. 論理デバイスの設定を行います。設定値を入力し、[物理デバイス] タブ内に、アーカイブデータ格納場所として、手順 5 までに作成した物理デバイスを [物理デバイス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。

項目	設定値
論理デバイス名	ArchiveDevice01
論理デバイス タイプ	ロードバランス
データタイプ	ネットシェア
階層	1

7. [メディアサービス] タブも同様に、アーカイブ処理実行場所として、[メディアサービス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。[保存] をクリックし、論理デバイス設定を保存します。

8. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



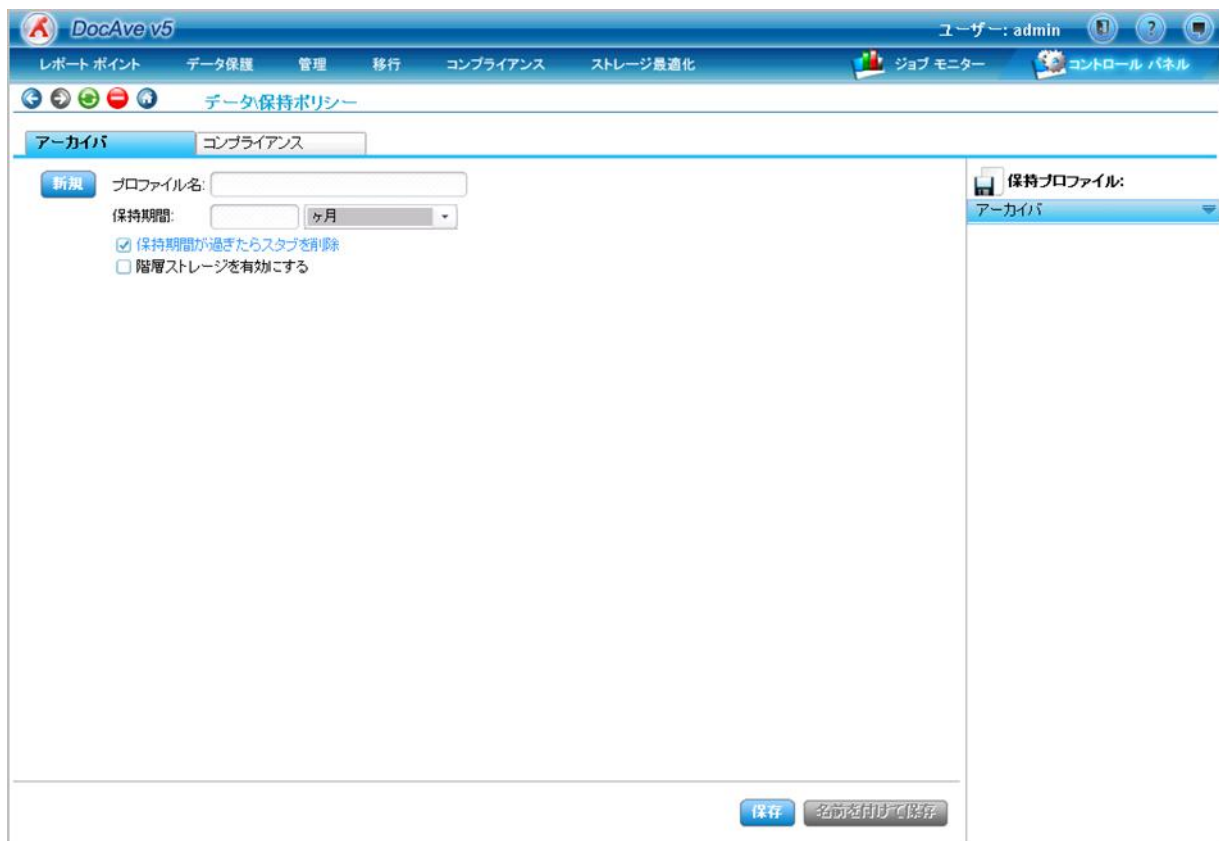
(2) 物理削除をするまでの保持期限の設定

アーカイブを行う前にアーカイブされたコンテンツの保持期間などの保持ポリシーを設定する必要があります。以下に保持ポリシーの設定手順について説明します。

1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [保持ポリシー] を選択し、保持ポリシー画面を開きます。



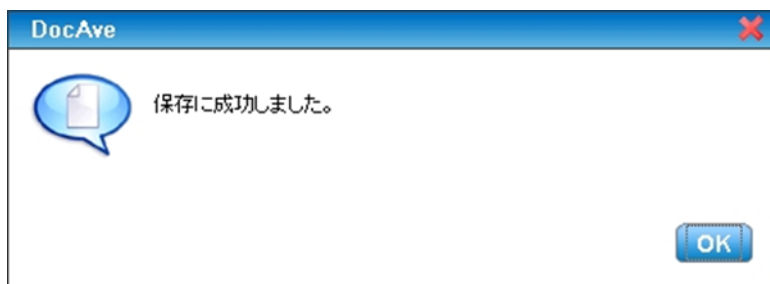
2. 保持ポリシーを作成します。保持ポリシーの設定を行い、[保存] をクリックします。





項目	説明	設定値
プロファイル名	保持ポリシーのプロファイル名を入力します。	ArchiveDataPolicy01
保持期間	アーカイブしたコンテンツの保持期間を設定します。 [階層ストレージを有効にする] にチェックが付いている場合は設定できません。	1 年
保持期間が過ぎたらスタブを削除	保持期間が過ぎた際にスタブを削除する場合はチェックを付けます。	有効
階層ストレージを有効にする	階層ストレージを有効にする場合はチェックを付けます。	無効

3. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



#### 4.2.2. ルールベースで行うサイトライフサイクル管理

プロジェクトが立ち上がる都度新規作成され、プロジェクトが完了すると更新がなくなるサイトのライフサイクルの例を以下に記述します。

項目	内容	参照ページ
① 新プロジェクト開始決定	プロジェクトが立ち上がる。	—
② サイトの新規作成申請	プロジェクトの情報共有のため、ユーザーが SHAREPOINT 管理者にサイトの新規作成を依頼。	—
③ サイトの新規作成	SHAREPOINT 管理者が申請内容(サイトテンプレート、プロジェクトメンバーにサイトの権限付与など)に基づいてサイトを作成。	—
④ サイトの利用開始 (プロジェクト開始)	プロジェクトメンバーによるサイトの利用開始。 アイテムやフォルダの投稿、編集、参照、削除、移動など。	—
⑤ プロジェクト完了	プロジェクトが完了し、サイトの更新がなくなる。	—
⑥ サイトのアーカイブ実行 (ルールベース)	スケジュールにしたがってアーカイブが実行され、最後のアクセスから180日間アクセスがない場合、アーカイブデータは低コストディスクに移動される。	—
⑦ 物理削除	アーカイブデータの保持期間が1年経つと、低コストディスクから自動で物理削除される。	—
⑧ アーカイブされたコンテンツの復元	アーカイブしたサイトの復元要望が出た場合、低コストディスクからリストアを実行。	Page.114「6.2 リストアの実施」

(1) コンテンツライフサイクルプランの作成

アーカイブを行うファームの範囲、アーカイブ対象となるコンテンツを計画します。以下に、プラン作成の手順について説明します。

1. アーカイブするサイトを確認。



2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [アーカイバ] - [プラン ビルダー] を選択し、プラン ビルダー画面を開きます。



3. [モード] で “ルールベース” を選択します。



4. 範囲を指定します。[範囲] のファーム、及びエージェント グループを設定し、アーカイブする範囲としてプロジェクトサイトが作成されるサイトコレクションを指定します。



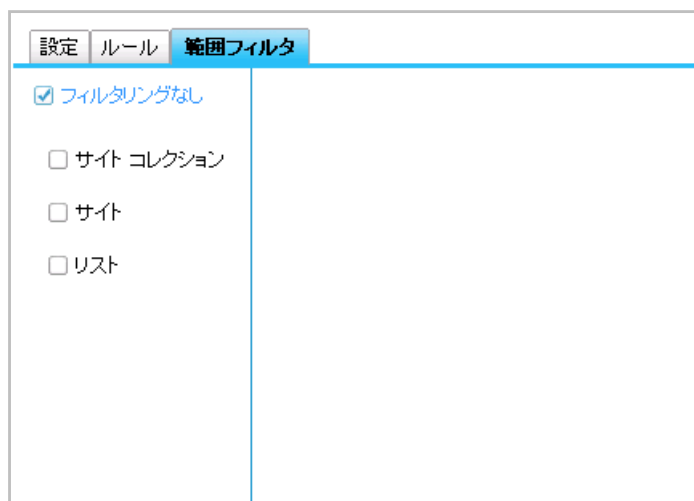
5. アーカイブの設定を入力します。

項目		設定値
プラン名		SiteRuleArchive01
論理デバイス		先で作成した論理デバイスを設定
保持ポリシー		先で作成した保持ポリシーを設定
スケジュール	開始時刻	2010/6/20 22:00
	間隔	1 週間

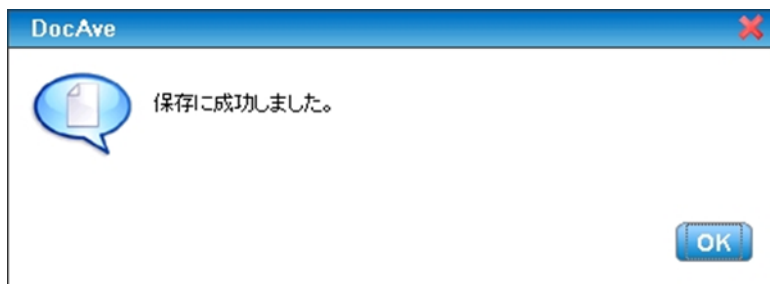
6. [ルール] タブをクリックし、ルールの設定を行います。

項目	設定例	
サイト コレクション	無効	—
サイト	有効	アクセス日時が今から 180 日前のデータ
リスト	無効	—
アイテム	無効	—
アイテムバージョン	無効	—
ドキュメント	無効	—
ドキュメント バージョン	無効	—
添付ファイル	無効	—

7. [範囲フィルタ] タブをクリックし、[フィルタリングなし] にチェックが付いてないことを確認します。

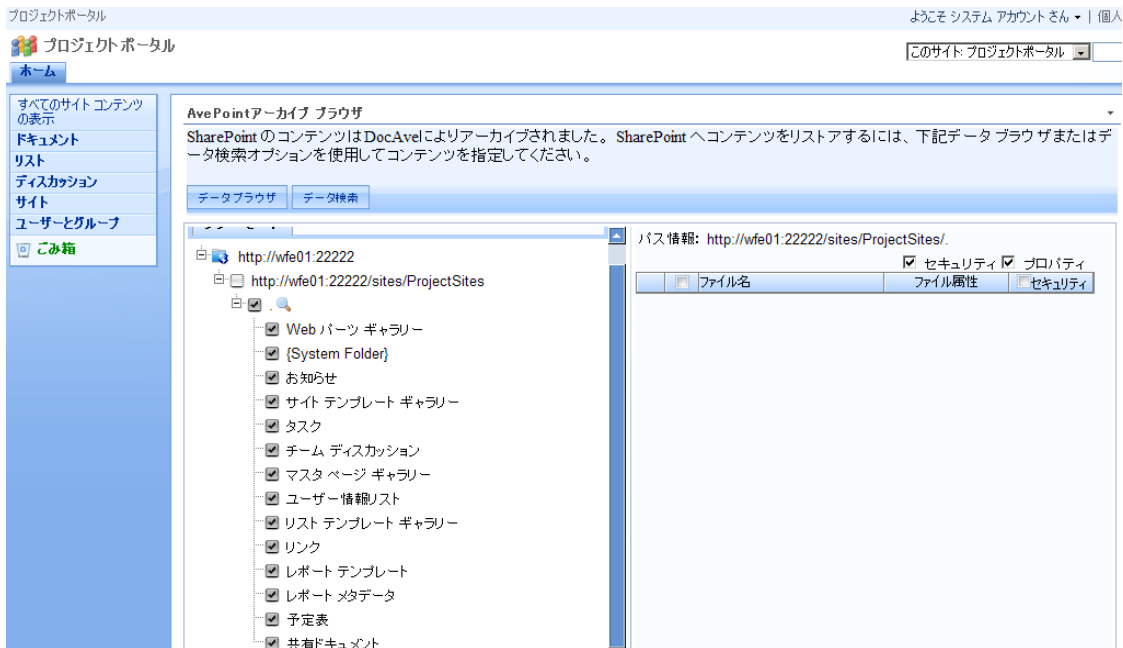


8. [保存] をクリックします。  
 9. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



10. ルールベースでのプランの作成は完了し、スケジュールに従ってアーカイブが実行されます。

11. アーカイブされたサイトを確認



#### 4.2.3. URL ベースで行うサイトライフサイクル管理

組織変更によって解体され、使用されなくなる部署サイトのライフサイクルの例を以下に記述します。

項目	内容	参照ページ
① 部署設立	部署が作られる。	—
② サイトの新規作成申請	部署内の情報共有のため、ユーザーが SHAREPOINT 管理者にサイトの新規作成を依頼。	—
③ サイトの新規作成	SHAREPOINT 管理者が申請内容(サイトテンプレート、プロジェクトメンバーにサイトの権限付与など)に基づいてサイトを作成。	—
④ サイトの利用開始	部署内メンバーによるサイトの利用開始。 アイテムやフォルダの投稿、編集、参照、削除、移動など。	—
⑤ 組織変更 (部署の消滅)	部署サイトが不要になる。	—
⑥ サイトのアーカイブ実行 (URL ベース)	当該部署サイトの URL ベース アーカイブの実行し、アーカイブデータは低コストディスクに移動される。	—
⑦ 物理削除	アーカイブデータの保持期間が 1 年経つと、低コストディスクから自動で物理削除される。	—
⑧ アーカイブされたコンテンツの復元	アーカイブしたサイトの復元要望が出た場合、低コストディスクからリストアを実行。	Page.114「6.2 リストアの実施」

#### (1) プランの作成

アーカイブを行うファームの範囲、アーカイブ対象となるコンテンツを計画します。以下に、プラン作成の手順について説明します。

##### 1. アーカイブするサイトを確認



##### 2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [アーカイブ] - [プラン ビルダー] を選択し、プラン ビルダー画面を開きます。



3. [モード] で “URL ベース” を選択します。





4. 範囲を指定します。[範囲] のファーム、およびエージェントグループを設定し、アーカイブするコンテンツの URL を含むテキストファイルをインポートします。



5. インポートが完了すると[URL の確認]をクリックし、アーカイブするコンテンツの URL が正常かどうかを確認します。



6. 状態が正常であることを確認します。

URL	状態
http://wfe01/	 

7. アーカイブの設定を入力します。

**新規** プラン名:  モード: URL ベース

---

**設定**

ストレージ

データ構成


レポート

高度

\* 論理デバイス:

\* 保持ポリシー:

\* 必須フィールド

開始時刻:  

項目	設定値
論理デバイス	先に作成した論理デバイスを設定
保持ポリシー	先に作成した保持ポリシーを設定
開始時刻	現在

8. [実行] をクリックすると、アーカイブが実行されます。

9. アーカイブされたサイトを確認



パス情報: http://wfe01/general/各種申請書類

ファイル名	セキュリティ	プロパティ
1 有給休暇申請書類.docx	<input checked="" type="checkbox"/>	ID2 更新者システム アカウント 更新日時20...
2 経費申請書類.docx	<input checked="" type="checkbox"/>	ID1 更新者システム アカウント 更新日時20...

### 4.3. サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたライフサイクル管理

DocAve アーカイバを利用することで、サイトレベルのライフサイクル管理を行うことができますが、サイトをアーカイブすると見た目が変わってしまいます。サイトレベルのアーカイブを行いたいが、サイトの見た目は変えたくないという場合、サイト内にあるすべてのアイテムやドキュメントをアーカイブすることで、見た目を変えずにサイト全体をアーカイブするという利用方法が想定できます。ここでは、例としてサイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたアーカイブについて説明します。

パターン	利用用途
サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたライフサイクル管理	組織変更やプロジェクト完了などのタイミングでサイト自体は不要になったが、サイトの見た目自体は変えずに残しておきたい場合などに、サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたアーカイブが向いています。

#### 4.3.1. サイトレベルとアイテムレベルを組み合わせたライフサイクル管理例

プロジェクトが立ち上がる都度新規作成され、プロジェクトが完了すると更新がなくなるサイトのライフサイクルの例を以下に記述します。

項目	内容	参照ページ
① 新プロジェクト開始決定	プロジェクトが立ち上がる。	—
② サイトの新規作成申請	プロジェクトの情報共有のため、ユーザーが SHAREPOINT 管理者にサイトの新規作成を依頼。	—
③ サイトの新規作成	SHAREPOINT 管理者が申請内容(サイトテンプレート、プロジェクトメンバーにサイトの権限付与など)に基づいてサイトを作成。	—
④ サイトの利用開始 (プロジェクト開始)	プロジェクトメンバーによるサイトの利用開始。 アイテムやフォルダの投稿、編集、参照、削除、移動など。	—
⑤ プロジェクト完了	プロジェクトが完了し、サイトの更新がなくなる。	—
⑥ サイトのアーカイブ実行 (ドキュメントのみ)	サイトレベルのアーカイブを行うと、サイト全体がアーカイブされたと表示されるので、それを避けるためにサイト内に含まれるドキュメントのみをアーカイブ対象とする。	—
⑦ 物理削除	アーカイブデータの保持期間が1年経つと、低コストディスクから自動で物理削除される。	—
⑧ アーカイブされたコンテンツの復元	アーカイブしたサイトの復元要望が出た場合、低コストディスクからリストアを実行。	Page.114「6.2 リストアの実施」

#### 4.3.2. 事前準備

##### (1) アーカイブ先ストレージの設定

アーカイブを行う前にアーカイブファイルを格納するデバイスの設定を行う必要があります。以下にデバイス構成の設定手順について説明します。

1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [デバイス管理] を選択し、デバイス管理画面を開きます。



- 物理デバイスを作成します。データタイプに “ネットシェア” を選択し、[物理デバイス] 欄の [追加] をクリックします。



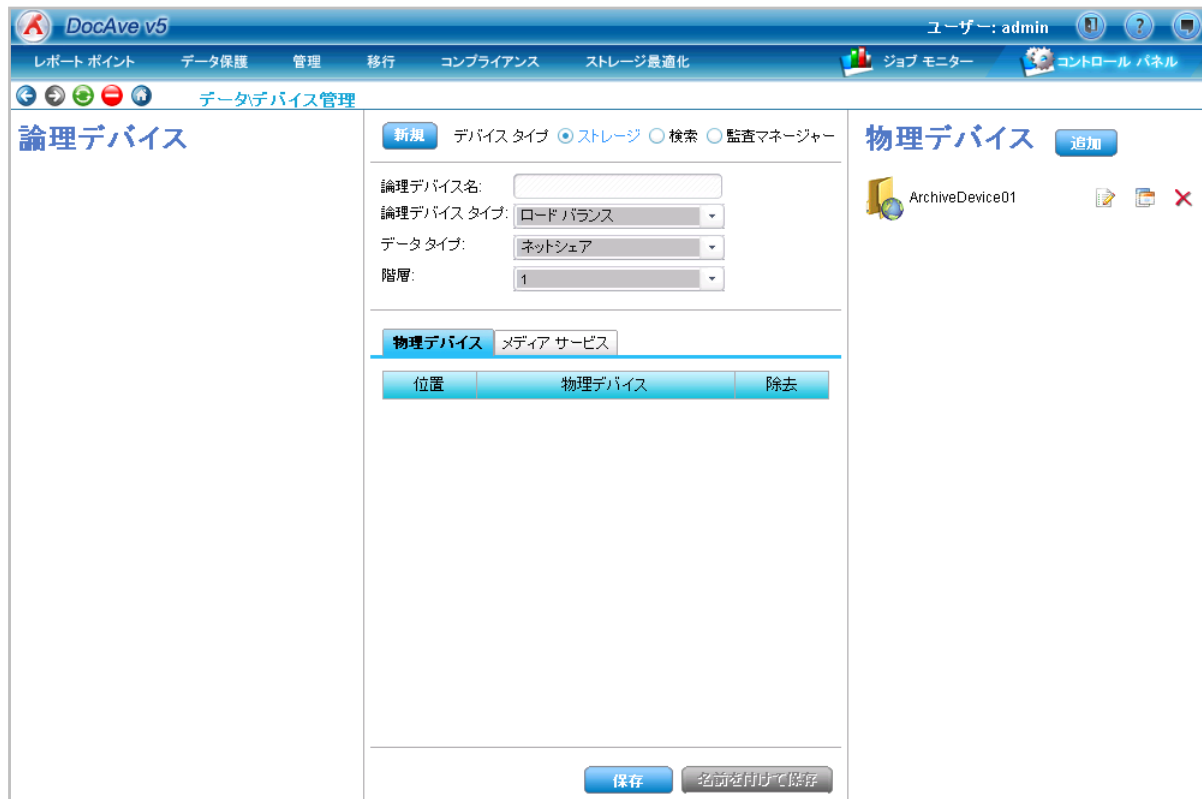
3. 物理デバイスの設定を行います。値を入力後、[保存] をクリックし、物理デバイス設定を保存します。

項目	設定値
論理デバイス	ArchiveDevice01
パス	¥¥docave01¥c\$¥¥archive01
階層	1
ドメイン	example
ユーザー	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザー
パスワード	指定したパスに書き込み権限を持ったユーザーのパスワード

4. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



5. 物理デバイスを使用した論理デバイスを作成します。[デバイスタイプ] の "ストレージ" を選択します。

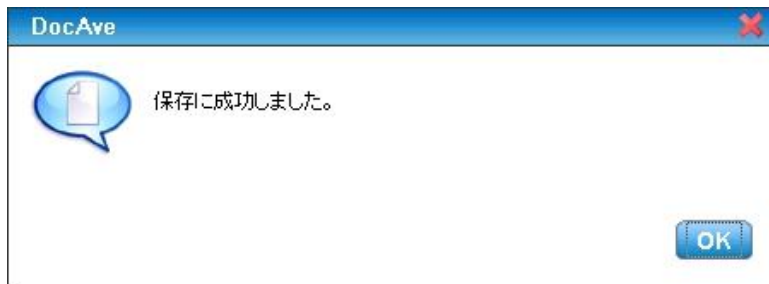


6. 論理デバイスの設定を行います。設定値を入力し、[物理デバイス] タブ内に、アーカイブデータ格納場所として、手順 5 までに作成した物理デバイスを [物理デバイス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。

項目	設定値
論理デバイス名	ArchiveDevice01
論理デバイス タイプ	ロードバランス
データタイプ	ネットシェア
階層	1

7. [メディアサービス] タブも同様に、アーカイブ処理実行場所として、[メディアサービス] 一覧よりドラッグ&ドロップで追加します。[保存] をクリックし、論理デバイス設定を保存します。

8. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



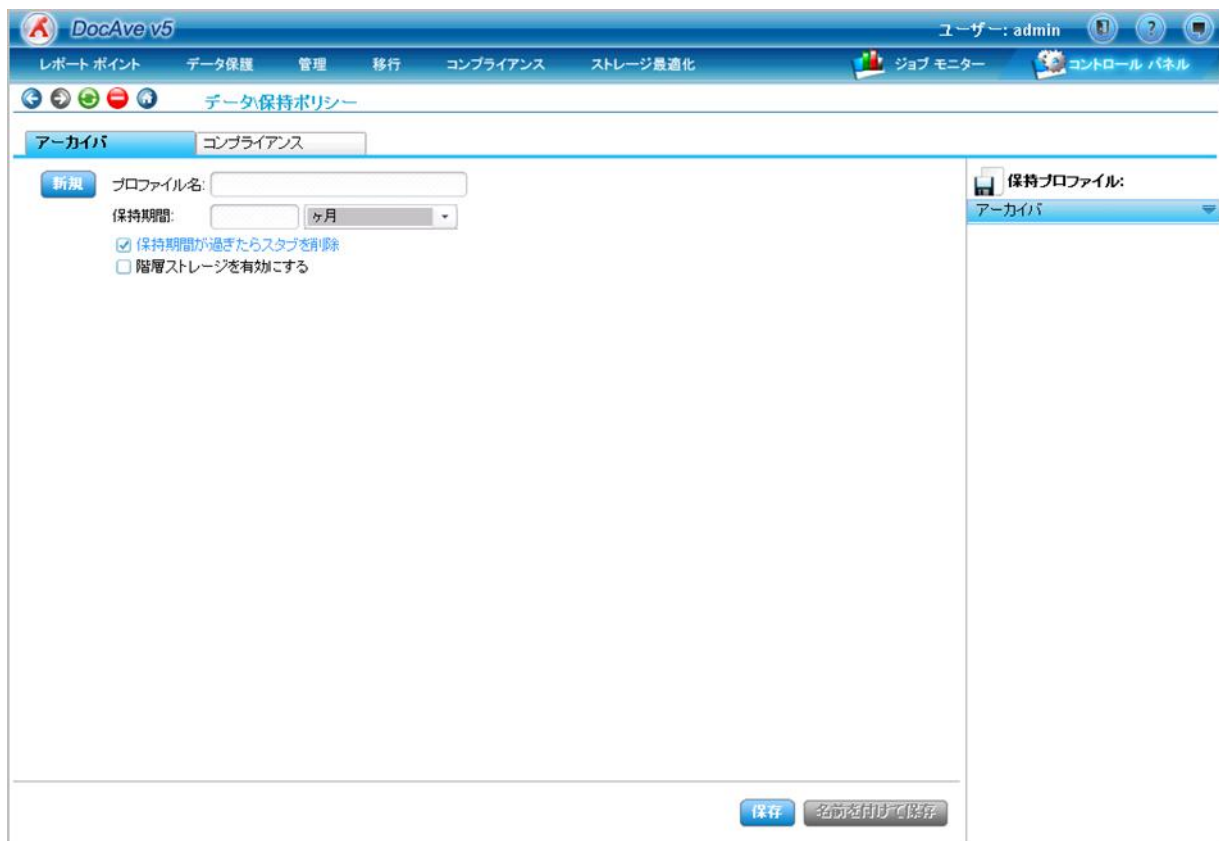
## (2) 物理削除をするまでの保持期限の設定

アーカイブを行う前にアーカイブされたコンテンツの保持期間などの保持ポリシーを設定する必要があります。以下に保持ポリシーの設定手順について説明します。

1. 管理コンソールより、[コントロール パネル] - [データ] - [保持ポリシー] を選択し、保持ポリシー画面を開きます。



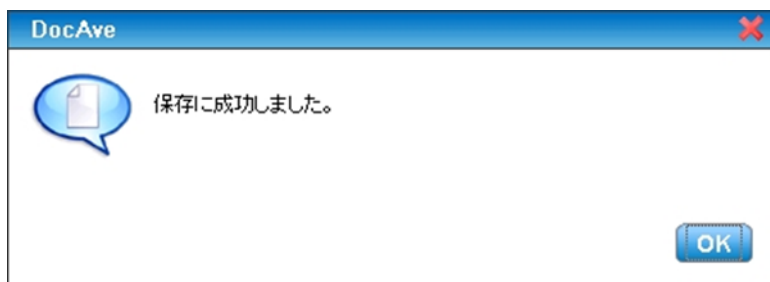
2. 保持ポリシーを作成します。保持ポリシーの設定を行い、[保存] をクリックします。





項目	説明	設定値
プロファイル名	保持ポリシーのプロファイル名を入力します。	ArchiveDataPolicy01
保持期間	アーカイブしたコンテンツの保持期間を設定します。 [階層ストレージを有効にする] にチェックが付いている場合は設定できません。	1 年
保持期間が過ぎたらスタブを削除	保持期間が過ぎた際にスタブを削除する場合はチェックを付けます。	有効
階層ストレージを有効にする	階層ストレージを有効にする場合はチェックを付けます。	無効

3. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



#### 4.3.3. コンテンツライフサイクルプランの作成

アーカイブを行うファームの範囲、アーカイブ対象となるコンテンツを計画します。以下に、プラン作成の手順について説明します。

1. アーカイブするコンテンツを確認





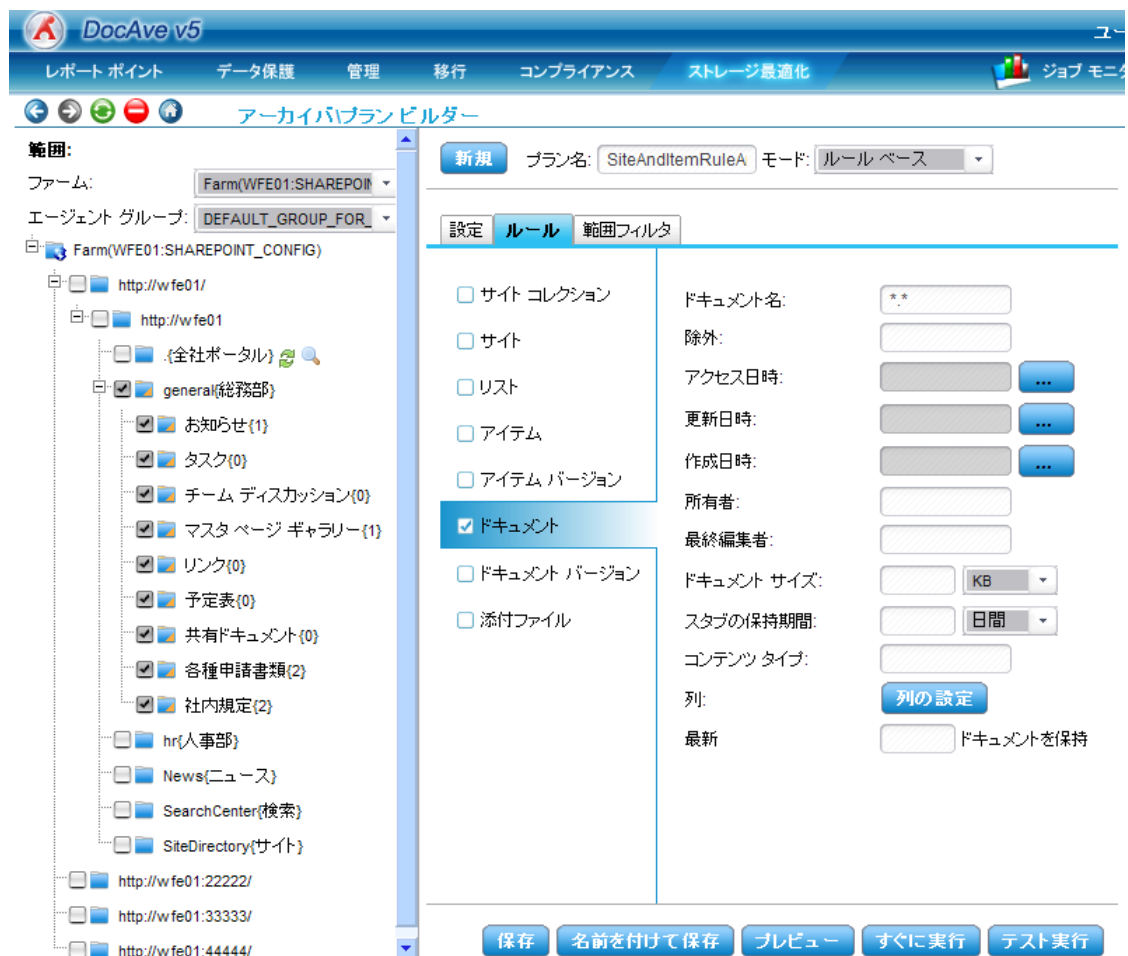
2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [アーカイバ] - [プラン ビルダー] を選択し、プラン ビルダー画面を開きます。



3. [モード] で“ルールベース”を選択します。



4. 範囲を指定します。[範囲] のファーム、及びエージェントグループを設定し、アーカイブする範囲としてドキュメントをアーカイブする範囲を指定します。




5. アーカイブの設定を入力します。

新規 プラン名:  モード: ルールベース

設定 ルール 範囲フィルタ

ストレージ \*論理デバイス: 1つを選択  
 \*保持ポリシー: 既定保持プロファイル  
 \*必須フィールド

データ構成  
 レポート  
 高度

スケジュール:  
 開始時刻:    
 間隔:  なし

項目		設定値
プラン名		SiteAndItemRuleArchive01
論理デバイス		先で作成した論理デバイスを設定
保持ポリシー		先で作成した保持ポリシーを設定
スケジュール	開始時刻	2010/6/20 22:00
	間隔	1 回のみ

6. [ルール] タブをクリックし、ルールの設定を行います。

設定 **ルール** 範囲フィルタ

- サイト コレクション
- サイト
- リスト
- アイテム
- アイテム バージョン
- ドキュメント**
- ドキュメント バージョン
- 添付ファイル

ドキュメント名:

アクセス日時:  ...

更新日時:  ...

作成日時:  ...

所有者:

最終編集者:

ドキュメント サイズ:  KB ▾

スタブの保持期間:  日間 ▾

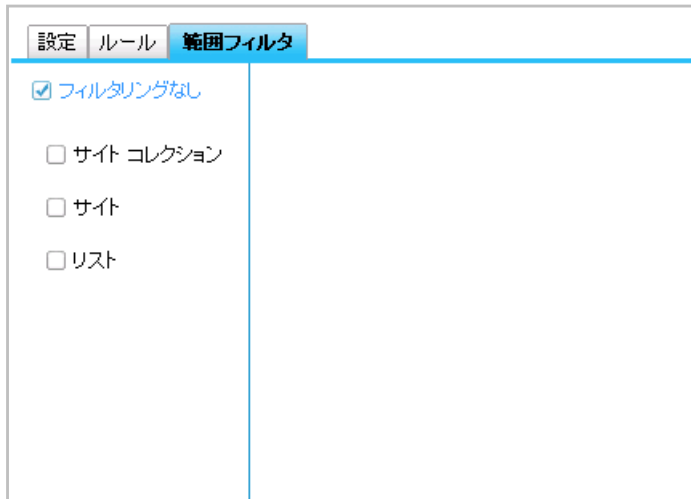
コンテンツ タイプ:

列:

最新  ドキュメントを保持

項目	設定例	
サイト コレクション	無効	—
サイト	無効	—
リスト	有効	—
アイテム	有効	—
アイテムバージョン	有効	—
ドキュメント	有効	ドキュメント名 *.*
ドキュメント バージョン	有効	—
添付ファイル	有効	—

7. [範囲フィルタ] タブをクリックし、[フィルタリングなし] にチェックが付いてないことを確認します。



8. [保存] をクリックします。
9. 保存に成功したメッセージが表示されます。[OK] をクリックして完了します。



10. ルールベースでのプランの作成は終了され、スケジュールに従ってアーカイブが実行されます。
11. アーカイブされたことを確認。アーカイブされたドキュメントのアイコンが変更されています。



## 4.4. エンドユーザーによるアーカイブ

エンドユーザー アーカイブの機能のインストール、及び設定を行っている場合、SharePoint 上からサイトやドキュメントなどをアーカイブすることができます。本章では、エンドユーザー アーカイブの機能を実行する手順について説明します。エンドユーザーアーカイブを利用する際に必要な設定については、後続の章を参照してください。

### (1) サイトレベルのエンドユーザー アーカイブの実行

以下に、サイトレベルのエンドユーザー アーカイブの実行手順について説明します。

#### 1. アーカイブするサイトを確認する。



#### 2. アーカイブしたい SharePoint サイトの設定画面を表示し、[このサイトをアーカイブ] をクリックします。



#### 3. [OK] をクリックし、DocAve アーカイブを実行します。

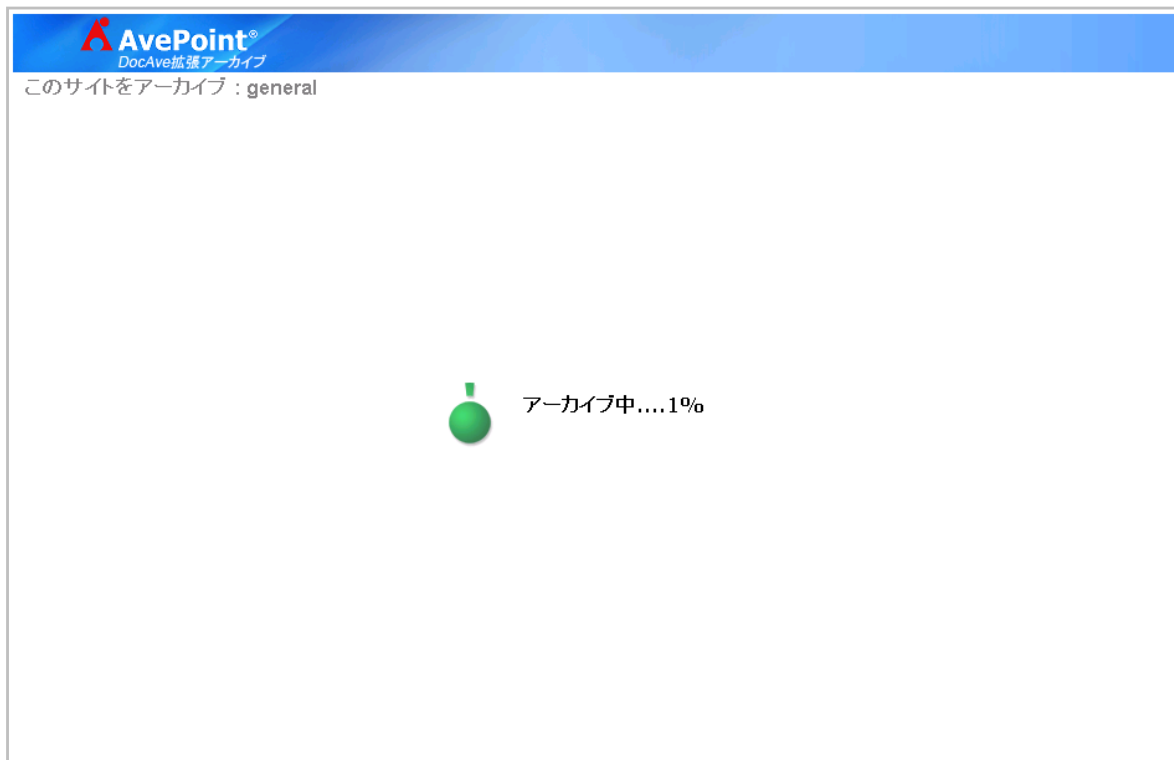
拡張アーカイブを実行しますか？

OK

キャンセル



4. アーカイブが開始されます。



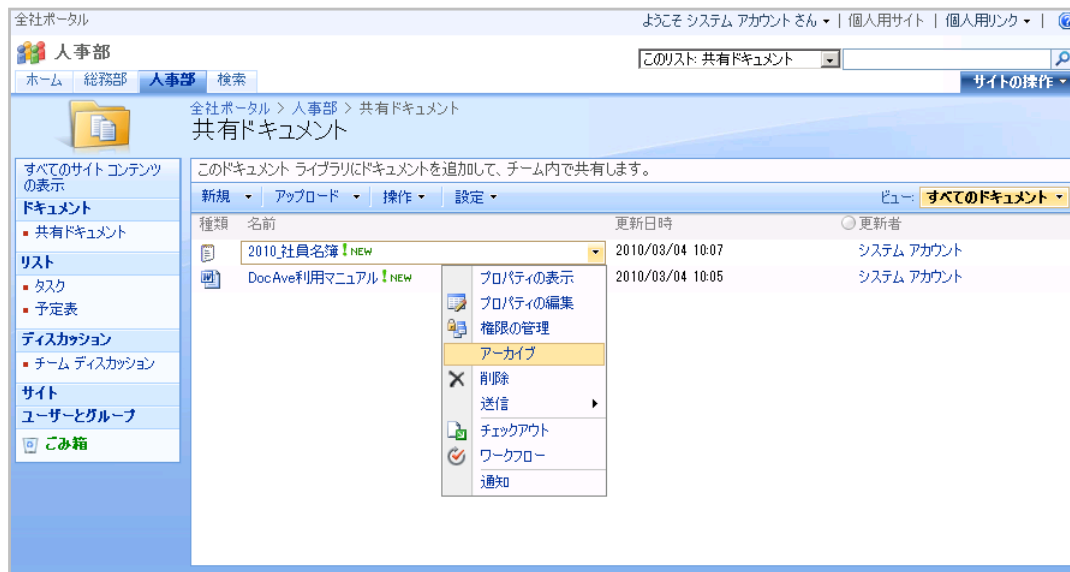
5. サイトの Top 画面に戻り、サイト内のデータが表示されないで、AvePoint アーカイブ ブラウザ Web パーツが表示されたら完了です。



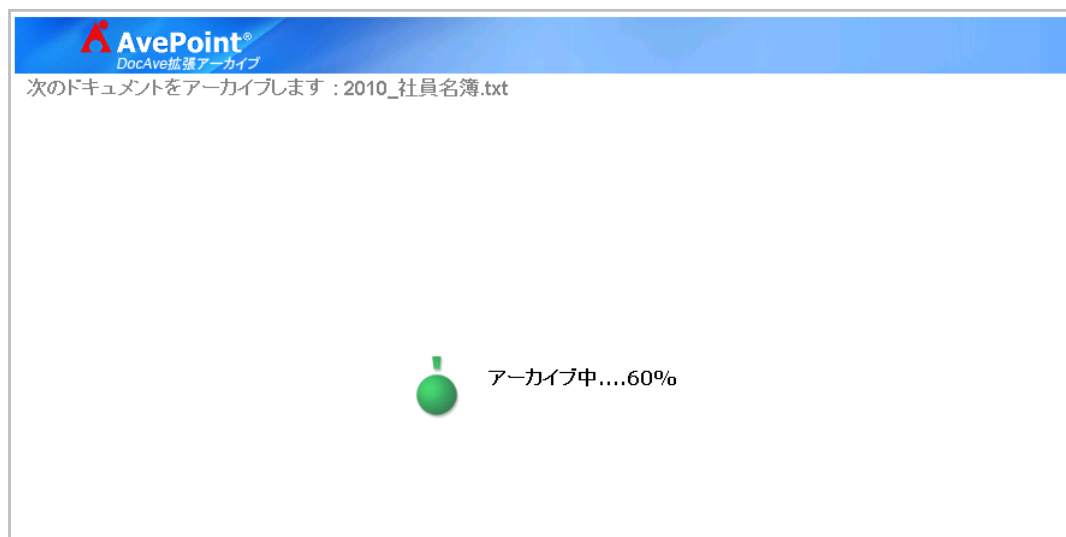
## (2) アイテムレベルのエンドユーザー アーカイブの実行

以下に、アイテムレベルのエンドユーザー アーカイブの実行手順について説明します。

1. SharePoint サイトのアーカイブしたいアイテムの [▼] をクリックし、[アーカイブ] をクリックします。



2. アーカイブが開始されます。



3. 元のページに戻り、アーカイブしたドキュメントのアイコンが変更されていたら完了です。



## 第5章 その他の機能概要

---

第4章のシナリオベースの利用方法で解説した機能を含め、機能の全体像を概説します。

## 5.1. コンテンツライフサイクル管理の設定

---

DocAve アーカイバ プランビルダーについて説明します。DocAve アーカイバの操作は管理コンソールのプランビルダーから行います。ここで、アーカイブの実行、アーカイブ対象の指定、スケジュール設定が可能です。以下より、プランビルダーの設定に必要な内容について記述します。

### 5.1.1. データを保管するデバイスの構成

DocAve では、アーカイブデータを保存するストレージデバイスを、物理デバイスおよび論理デバイスで構成します。物理デバイスとは、物理的なデータの配置場所を指します。データを書き込むことが出来る物理デバイスは、ネットシェア・FTP・TSM・EMC Centera・クラウドストレージの 5 種類です。

論理デバイスは、ストレージを抽象化したもので、物理デバイスのサーバー名が変わるなど変更があったとしても DocAve 側での変更は最小限ですみます。なお、物理デバイスと論理デバイスの設定はアーカイバ プランビルダーでプランの作成をする前に設定する必要があります。以下より、物理デバイス、論理デバイスの設定内容について説明します。

(1) ネット シェア

表 1 ネット シェア: 物理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
物理デバイス	任意の名前を入力します。	—
-ローカル ドライブ/UNC パス	論理デバイスの設定「論理デバイス タイプ」が「ロードバランズ」であれば「UNC パス」、「専用」であれば「ローカルドライブ」を指定します。	—
パス	物理デバイスのフォルダパスを指定します。パスの指定方法は論理デバイスの設定「論理デバイス タイプ」で選択したタイプによって異なります。	—
階層	物理デバイスの階層を指定します。(1~10)	—
ドメイン	指定したパスにアクセスできるユーザーアカウントの所属ドメインを入力します。	—
ユーザー名	指定したパスにアクセスできるユーザーアカウント名を入力します。	—
パスワード	指定したパスにアクセスできるユーザーアカウントのパスワードを入力します。	—

物理デバイス:

ローカルドライブ  UNC パス

パス:   
*例: \\server1c\$\data*

階層:

ドメイン:

ユーザー名:

パスワード:

表 2 ネット シェア: 論理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイスタイプ	アーカイブでは「ストレージ」を選択します。「検索」「監査マネージャー」は他のモジュール操作で使用する選択肢です。	—
論理デバイス名	任意の名前を入力します。	—
論理デバイス タイプ	「ロードバランス」または「専用」から選択します。「ロードバランス」は共有フォルダ、「専用」はローカルドライブです。	—
データ タイプ	「ネット シェア」を指定します。[物理デバイス] 一覧にネット シェアで使用できる物理デバイスが表示されます。	ここで指定した形式によって物理デバイス、論理デバイスの設定項目が変わります。
階層	作成した物理デバイスで使用している階層より選択します。選択した階層の物理デバイスのみ、[物理デバイス] 一覧に表示されます。	—
物理デバイス	この論理デバイスを保持する物理デバイスを指定します。	—
メディア サービス	メディア サービスを指定します。	—

**新規** デバイス タイプ  ストレージ  検索  監査マネージャー

---

論理デバイス名:

論理デバイス タイプ:

データ タイプ:

階層:

---

**物理デバイス**    **メディア サービス**

位置	物理デバイス	除去
----	--------	----

---

**物理デバイス**    **メディア サービス**

メディアサービス名	除去
-----------	----

(2) FTP

表 3 FTP:物理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイス名	任意の名前を入力します。	—
ホスト	FTP のホスト名を指定します。	—
ポート	FTP のポート名を指定します。	—
ユーザー名	指定した FTP にアクセスできるユーザーアカウント名を入力します。	—
パスワード	指定した FTP にアクセスできるユーザーアカウントのパスワードを入力します。	—

The screenshot shows a light blue configuration window with the following elements:

- デバイス名: [Input field]
- ホスト: [Input field]
- ポート: [Input field]
- ユーザー名: [Input field]
- パスワード: [Input field]
- 保存 (Save) button
- キャンセル (Cancel) button



表 4 FTP:論理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイスタイプ	アーカイブでは「ストレージ」を選択します。「検索」「監査マネージャー」は他のモジュール操作で使用する選択肢です。	—
論理デバイス名	任意の名前を入力します。	—
データタイプ	「FTP」を指定します。[物理デバイス] 一覧に FTP で使用できる物理デバイスが表示されます。	ここで指定した形式によって物理デバイス、論理デバイスの設定項目が変わります。
キャッシュストレージ	キャッシュ格納先です。ネット シェアで作成された論理デバイスから指定します。	—
物理デバイス	この論理デバイスを保持する物理デバイスを指定します。	—
メディアサービス	メディアサービスを指定します。	—

新規    デバイスタイプ     ストレージ     検索     監査マネージャー

論理デバイス名:

データタイプ:

---

物理デバイス    メディアサービス

キャッシュストレージ:

位置	物理デバイス	除去

---

物理デバイス    **メディアサービス**

メディアサービス名	除去

(3) TSM

表 5 TSM: 物理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイス名	任意の名前を入力します。	—
通信方法	通信方法は「TCP IP」、「SHARED MEM」、「編集」から選択します。	—
TCP ポート	TCP ポートを指定します。	—
TCP サーバーアドレス	TCP サーバーアドレスを指定します。	—
ノード名	ノード名を指定します。	—
管理クラス	管理クラスを指定します。	—
パスワード	指定した TSM にアクセスできるユーザーアカウントのパスワードを入力します。	—

デバイス名:

通信方法:

TCP ポート:

TCP サーバー アドレス:

ノード名:

管理クラス:

パスワード:

表 6 TSM: 論理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイスタイプ	アーカイブでは「ストレージ」を選択します。「検索」「監査マネージャー」は他のモジュール操作で使用する選択肢です。	—
論理デバイス名	任意の名前を入力します。	—
データタイプ	「TSM」を指定します。[物理デバイス] 一覧に TSM で使用できる物理デバイスが表示されます。	ここで指定した形式によって物理デバイス、論理デバイスの設定項目が変わります。
キャッシュストレージ	キャッシュ格納先です。ネット シェアで作成された論理デバイスから指定します。	—
物理デバイス	この論理デバイスを保持する物理デバイスを指定します。	—
メディアサービス	メディアサービスを指定します。	—

新規 デバイスタイプ  ストレージ  検索  監査マネージャー

論理デバイス名:

データタイプ:

物理デバイス メディアサービス

キャッシュストレージ:

位置 物理デバイス 除去

物理デバイス メディアサービス

メディアサービス名 除去

(4) EMC Centera

表 7 EMC Centera: 物理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイス名	任意の名前を入力します。	—
EMC サーバーアドレス	EMC サーバーアドレスを指定します。	—
認証	認証方法は「構成ファイル」または「EMC サーバー認証」を指定します。「構成ファイル」を選択した場合、PEA ファイルの場所を指定します。	—
ユーザー名	指定した EMC Centera にアクセスできるユーザーアカウント名を入力します。	—
パスワード	指定した EMC Centera にアクセスできるユーザーアカウントのパスワードを入力します。	—

デバイス名:

EMC サーバー アドレス:   
例 10.1.2.181 または 10.1.2.181, 10.1.2.189

認証:

ユーザー名:

パスワード:

表 8 EMC Centera: 論理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイスタイプ	アーカイブでは「ストレージ」を選択します。「検索」「監査マネージャー」は他のモジュール操作で使用する選択肢です。	—
論理デバイス名	任意の名前を入力します。	—
データタイプ	「EMC Centera」を指定します。[物理デバイス] 一覧に EMC Centera で使用できる物理デバイスが表示されます。	ここで指定した形式によって物理デバイス、論理デバイスの設定項目が変わります。
キャッシュストレージ	キャッシュ格納先です。ネット シェアで作成された論理デバイスから指定します。	—
物理デバイス	この論理デバイスを保持する物理デバイスを指定します。	—
メディアサービス	メディアサービスを指定します。	—

新規
デバイスタイプ
 ストレージ
 検索
 監査マネージャー

論理デバイス名:   
 データタイプ: EMC Centera ▼

---

物理デバイス
メディアサービス

キャッシュストレージ: -1つを選択- ▼

位置
物理デバイス
除去

---

物理デバイス
メディアサービス

メディアサービス名
除去

(5) クラウド ストレージ

表 9 クラウド ストレージ: 物理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイス名	任意の名前を入力します。	—
クラウド タイプ	選択肢は「RackSpace クラウドファイル」のみです。	—
ユーザー名	指定したクラウド ストレージにアクセスできるユーザーアカウント名を入力します。	—
API アクセスキー	指定したクラウド ストレージにアクセスできる API アクセスキーを入力します。	—
CDN を有効にする	ページトラフィックの軽減とサーバーの処理能力を向上させる場合は、チェックを付けます。	—

デバイス名:

クラウド タイプ: RackSpace クラウド ファイル ▼

ユーザー名:

API アクセス キー:

CDN を有効にする

表 10 クラウド ストレージ: 論理デバイス設定一覧

項目	説明	備考
デバイスタイプ	アーカイブでは「ストレージ」を選択します。「検索」「監査マネージャー」は他のモジュール操作で使用する選択肢です。	—
論理デバイス名	任意の名前を入力します。	—
データタイプ	「クラウド ストレージ」を指定します。[物理デバイス] 一覧にクラウド ストレージで使用できる物理デバイスが表示されます。	ここで指定した形式によって物理デバイス、論理デバイスの設定項目が変わります。
キャッシュ ストレージ	キャッシュ格納先です。ファイル シェアで作成された論理デバイスから指定します。	—
物理デバイス	この論理デバイスを保持する物理デバイスを指定します。	—
メディア サービス	メディア サービスを指定します。	—

新規
デバイス タイプ
 ストレージ
 検索
 監査マネージャー

論理デバイス名:

データタイプ: クラウド ストレージ

---

物理デバイス
メディア サービス

キャッシュ ストレージ: -1つを選択-

位置	物理デバイス	除去
----	--------	----

---

物理デバイス
メディア サービス

メディアサービス名	除去
-----------	----

### 5.1.2. アーカイブデータを保持する期間の指定 (=保持ポリシー)

アーカイブデータを保持する期間を定義します。期間は月数または年数を指定できます。既定で「保持期間を過ぎたらスタブを削除」が選択されており、指定した保持期間を過ぎるとスタブが削除されるようになっています。また、無期限で保持したい場合は標準で用意されている「既定保持プロファイル」を使用します。アーカイブでは、プランビルダーでアーカイブプランを設定する前に保持ポリシーを作成しておく必要があります。



### 5.1.3. アーカイブを実行する条件の設定 (プラン)

アーカイブプランで設定する内容について説明します。


#### (1) アーカイブルールを適応する範囲の設定

「範囲」では、プランビルダーで設定した内容を適用する範囲を定義します。後に出てくる「ルール」や「範囲フィルタ」は、ここで指定した範囲内でアーカイブする対象を検索します。ファームとエージェントグループを指定して表示される Farm をクリックすると Web アプリケーションが展開されます。チェックボックスをワンクリックすると、チェックマーク  が入ります。これは親ノードとその配下のすべての子ノードが選択されます。ダブルクリックでチェックを入れると、三角形のチェックマーク  が入ります。これは親ノードのみが選択されていることを示します。なお、DocAve アーカイバを有効にしないと「範囲」には表示されません。DocAve アーカイバの有効化に関しては Page.18「3.4 環境の確認」を参照して下さい。



(2) 設定

「設定」では、アーカイブしたデータを保存する場所の指定や暗号化、圧縮の設定などその他オプションの設定をします。設定の一覧表を以下に示します。

項目		説明	備考
ストレージ	論理デバイス	作成するアーカイブプランで使用する論理デバイスを指定します。	—
	保持ポリシー	作成するアーカイブプランで使用する保持ポリシーを指定します。	—
データ構成	圧縮	データの圧縮と暗号化を行うかを設定します。また、設定を行う場合には、メディアエージェントか SharePoint エージェントどちらに適用するかが選択できます。既定では、[圧縮]と[暗号化]が無効になっていることに注意してください。	—
	暗号化		
レポート	メール通知	メール通知を行う場合は、設定を行います。設定を行う場合は、アーカイブプランを作成する前にメール通知を定義する必要があります。	—
高度	スタブ作成	アーカイブ時にスタブを作成する場合は、チェックを付けます。	—
	SharePoint アイコンの変更	アーカイブ済みアイテムのアイコンを DocAve のアーカイブ済みアイコン  に変更する場合は、チェックを付けます。	—
	"アーカイブ済みコンテンツ"メタデータ列の追加	リストやライブラリにアーカイブされたコンテンツかどうか表示する列を追加する場合は、チェックを付けます。	—
	スタブを読み取り専用にする	スタブを読み取り専用にする場合は、チェックを付けます。	—
	全文インデックスを作成する	アーカイブされたコンテンツに対してインデックス処理や検索を可能にする場合は、チェックを付けます。	—
	バイナリストアのデータを含める	バイナリストアのデータを含めてアーカイブ処理をする場合は、チェックを付けます。	—
	コネクタのデータを含める	コネクタストレージへアップロードされたデータを含めて処理する場合は、チェックを付けます。	—
スケジュール	スケジュール	設定したアーカイブプランの実行スケジュールを設定します。開始時刻を設定して実行間隔を 1 回のみ、時間数、日数、週数、月数で指定できます。	—

- ストレージ

- データ構成

- レポート

- 高度

- スケジュール

スケジュール:

開始時刻:  

間隔:  なし

### (3) ルール

「ルール」では、アーカイブ対象となるコンテンツを定義します。ルールはサイト コレクション、サイト、リスト、アイテム、アイテムバージョン、ドキュメント、ドキュメントバージョン、添付ファイルの 8 種類のレベルから、それぞれ名前、更新日時、作成日時、所有者、サイズなどを指定できます。なお、ルールは各レベルの中から最低 1 項目の設定が必須です。設定値には、[ドキュメント]、[ドキュメント バージョン]、および [添付ファイル] でワイルドカード "\*"、その他ではワイルドカード "\*" がサポートされています。ルールの設定一覧表を以下に示します。

#### 1. サイトコレクションに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
名前		アーカイブするサイト コレクション名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—

項目		説明	備考
	今から…前のデータ —	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。指定したユーザーが[ユーザーとグループ]の[<サイト名>の所有者]に追加されているサイトをアーカイブ対象とします。	—
テンプレート		サイトコレクションを作成する際に選択したテンプレートを指定します。	—
サイト サイズ		サイトのサイズを指定します。指定したサイズ数より大きなサイトをアーカイブ対象とします。	—
スタブの保存期間		SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—

設定
ルール
範囲フィルタ

- サイト コレクション
- サイト
- リスト
- アイテム
- アイテム バージョン
- ドキュメント
- ドキュメント バージョン
- 添付ファイル

名前:

アクセス日時:  ...

更新日時:  ...

作成日時:  ...

所有者:

テンプレート:

サイト サイズ:  KB ▼

スタブの保持期間:  日間 ▼

- アクセス日時



- 更新日時、作成日時



## 2. サイトに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
名前		アーカイブするサイト名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。指定したユーザーが[ユーザーとグループ]の[<サイト名>の所有者]に追加されているサイトをアーカイブ対象とします。	—
テンプレート		サイトを作成する際に選択したテンプレートを指定します。	—
スタブの保存期間		SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—

設定 ルール 範囲フィルタ

サイト コレクション  
 サイト  
 リスト  
 アイテム  
 アイテム バージョン  
 ドキュメント  
 ドキュメント バージョン  
 添付ファイル

名前:   
 アクセス日時:  ...  
 更新日時:  ...  
 作成日時:  ...  
 所有者:   
 テンプレート:   
 スタブの保持期間:  日間

- アクセス日時

DocAve

より前のデータ  
 今から   前のデータ  
 なし

*注意: プラン対象範囲の最終アクセス時刻に対し自動的にSharePoint監査のトラッキング機能が有効になります。これによりSharePointパフォーマンスが低下する可能性があります。*

OK キャンセル

- 更新日時、作成日時

DocAve

より前のデータ  
 今から   前のデータ  
 なし

OK キャンセル



### 3. リストに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
名前		アーカイブするリスト名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。リストの列の「所有者」が指定したユーザーになっているアイテムをアーカイブ対象とします。	—
スタブの保存期間		SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—



#### 4. アイテムに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
名前		アーカイブするアイテム名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のアイテムをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したアイテムをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のアイテムをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したアイテムをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。アイテムの列の[所有者]が指定したユーザーになっているアイテムをアーカイブ対象とします。	—
最終編集者		最終編集者となっているユーザーを指定します。更新者が指定したユーザーになっているアイテムをアーカイブ対象とします。	—
コンテンツタイプ		コンテンツタイプを指定します。指定したコンテンツタイプをアーカイブ対象とします。	—

項目	説明	備考	
列	メタデータに組み込み済み	[添付ファイル]の有無、アイテムの列の[順序]、[状態]、[達成率 (%)]、[担当者]、[開始日]、[期日]を指定します。また、設定値は大文字小文字の区別をすることができます。	—
	カスタマイズされたメタデータ	独自のメタデータとメタデータの条件式を指定します。独自のメタデータを追加して指定した条件式でアーカイブ対象を設定することができます。	—

- 更新日時、作成日時

- 列の設定

DocAve ✖

メタデータに組み込み済 カスタマイズされたメタデータ

大文字小文字を区別

フィールド	条件	値
添付ファイル	次の文字と完全一致 ▾	1つを選択 ▾
順序	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
状態	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
速成率(%)	次の文字と完全一致 ▾	<input type="text"/>
担当者	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
開始日	次の日時 ▾	<input type="text"/> <input type="text"/>
期日	次の日時 ▾	<input type="text"/> <input type="text"/>

DocAve ✖

メタデータに組み込み済 カスタマイズされたメタデータ

フィールド	タイプ	条件	値	+ 追加

5. アイテム バージョンに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
名前		アーカイブするアイテム バージョン名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のアイテム バージョンをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したアイテム バージョンをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
最終編集者		最終編集者となっているユーザーを指定します。更新者が指定したユーザーになっているアイテム バージョンをアーカイブ対象とします。	—
保持するバージョン		保持するバージョンを指定します。「1」を設定すると現行バージョンと1つ前のバージョンをアーカイブします。現行バージョンのみを保存する場合は「0」を設定します。	—

The screenshot shows the 'ルール' (Rules) configuration interface. On the left, a list of rule categories is shown with checkboxes: サイト コレクション, サイト, リスト, アイテム, **アイテム バージョン** (checked), ドキュメント, ドキュメント バージョン, and 添付ファイル. On the right, the configuration for the selected rule is shown with the following fields:

- 名前: [Text input field]
- 更新日時: [Date picker button]
- 最終編集者: [Text input field]
- 保持するバージョン: [Text input field]

- 更新日時、作成日時



The image shows a dialog box titled "DocAve" with a red close button in the top right corner. It contains three radio button options for date selection:

- [Empty text box] [Calendar icon] より前のデータ
- 今から [Empty text box] [Date icon] 前のデータ
- なし

At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

6. ドキュメントに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
ドキュメント名		アーカイブするドキュメント名を指定します。ワイルドカード「*<文字>」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。ドキュメントの列の[所有者]が指定したユーザーになっているドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
最終編集者		最終編集者となっているユーザーを指定します。更新者が指定したユーザーになっているドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
ドキュメント サイズ		ドキュメントのサイズを指定します。指定したサイズ数より大きなドキュメントをアーカイブ対象とします。	—



項目		説明	備考
スタブの保存期間		SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—
コンテンツタイプ		コンテンツタイプを指定します。指定したコンテンツタイプをアーカイブ対象とします。	—
列	メタデータに組み込み済	ドキュメントの列の[作成者]、[発行者]、[ファイルタイプ]、[状態]、[バージョン]でアーカイブ対象を設定することができます。また、設定値は大文字小文字の区別をすることができます。	—
	カスタマイズされたメタデータ	独自のメタデータとメタデータの条件式を指定します。独自のメタデータを追加して指定した条件式でアーカイブ対象を設定することができます。	—

設定
ルール
範囲フィルタ

- サイト コレクション
- サイト
- リスト
- アイテム
- アイテム バージョン
- ドキュメント
- ドキュメント バージョン
- 添付ファイル

ドキュメント名:

アクセス日時:  ...

更新日時:  ...

作成日時:  ...

所有者:

最終編集者:

ドキュメント サイズ:  KB ▼

スタブの保持期間:  日間 ▼

コンテンツタイプ:

列: 列の設定

- アクセス日時

DocAve

より前のデータ  
 今から  前のデータ  
 なし

注意: プラン対象範囲の最終アクセス時刻に対し自動的にSharePoint 監査のトラッキング機能が有効になります。これによりSharePoint パフォーマンスが低下する可能性があります。

OK キャンセル

- 更新日時、作成日時

DocAve

より前のデータ  
 今から  前のデータ  
 なし

OK キャンセル

- 列の設定

DocAve

メタデータに組み込み済 カスタマイズされたメタデータ

大文字小文字を区別

フィールド	条件	値
作成者	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
発行者	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
ファイル タイプ	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
状態	次の文字を含む ▾	<input type="text"/>
バージョン	次の文字と完全一致 ▾	<input type="text"/>

OK キャンセル 適用



7. ドキュメント バージョンに対して指定可能なルール

項目		説明	備考
ドキュメント名		アーカイブするドキュメント バージョン名を指定します。ワイルドカード「*<文字>」を使用することができます。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のドキュメント バージョンをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したドキュメント バージョンをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
編集者		編集者となっているユーザーを指定します。更新者が指定したユーザーになっているドキュメント バージョンをアーカイブ対象とします。	—
ドキュメント サイズ		ドキュメントサイズを指定します。指定したサイズ数より大きなドキュメントをアーカイブ対象とします。	—
スタブの保存期間		SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—
保持するバージョン		保持するバージョンを指定します。「1」を設定すると現行バージョンと1つ前のバージョンをアーカイブします。現行バージョンを保存する場合は「0」を設定します。	—

設定 **ルール** 範囲フィルタ

サイト コレクション  
 サイト  
 リスト  
 アイテム  
 アイテム バージョン  
 ドキュメント  
 **ドキュメント バージョン**  
 添付ファイル

ドキュメント名:   
 更新日時:  ...  
 編集者:   
 ドキュメント サイズ:  KB  
 スタブの保持期間:  日間  
 保持するバージョン:

- 更新日時

DocAve

より前のデータ  
 今から  前のデータ  
 なし

OK キャンセル

#### 8. 添付ファイルに対して指定可能なルール

項目	説明	備考	
添付ファイル名	アーカイブする添付ファイル名を指定します。ワイルドカード「*<文字>」を使用することができます。	—	
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前の添付ファイルをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過した添付ファイルをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者	所有者となっているユーザーを指定します。アイテムの列の[所有者]が指定したユーザーになっている添付ファイルをアーカイブ対象とします。	—	

項目	説明	備考
添付ファイル サイズ	添付ファイルのサイズを指定します。指定したサイズ数より大きな添付ファイルをアーカイブ対象とします。	—
スタブの保存期間	SHAREPOINT にスタブが保持される期間(日数、週数、月数、年数)を指定します。	—

- 作成日時

(4) 範囲の絞り込み

「範囲フィルタ」を使用すると、特定のサイトコレクション・サイト・リストに対してフィルタを適用することができます。範囲フィルタの設定は設定したそのレベルとその配下のレベルすべてに適用されます。例えばサイトコレクションを設定するとサイト コレクション配下のサイトやリストなどすべてのレベルに対して設定されたルールが適用されます。範囲フィルタの設定一覧表を以下に示します。

1. サイトコレクションに対して指定可能な絞り込み条件

項目		説明	備考
名前		アーカイブするサイトコレクション名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトコレクションをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。指定したユーザーが[ユーザーとグループ]の[<サイト名>の所有者]に追加されているサイトをアーカイブ対象とします。	—
テンプレート		サイトコレクションを作成する際に選択したテンプレートを指定します。	—
サイト サイズ		サイトのサイズを指定します。指定したサイズ数より大きなサイトをアーカイブ対象とします。	—

項目	説明	備考
サイトの割り当て量のトリガー	サイトの割り当て量の使用量を指定します。アーカイブの実行と停止のタイミングをクォータで設定したサイト記憶域の最大サイズの使用量(%)によって指定します。上限値を超えた場合、アーカイブを開始し、下限値を下回った場合、アーカイブを停止します。	—

- アクセス日時

- 更新日時、作成日時



2. サイトに対して指定可能な絞り込み条件

項目		説明	備考
名前		アーカイブするサイト名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時を指定します。アクセス日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	アクセス日時を指定します。プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時を指定します。更新日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	更新日時を指定します。プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時を指定します。作成日時が指定した日時以前のサイトをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	作成日時を指定します。プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したサイトをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		所有者となっているユーザーを指定します。指定したユーザーが[ユーザーとグループ]の[<サイト名>の所有者]に追加されているサイトをアーカイブ対象とします。	—
テンプレート		サイトを作成する際に選択したテンプレートを指定します。	—



### 3. リストに対して指定可能な絞り込み条件

項目		説明	備考
名前		アーカイブするリスト名を指定します。ワイルドカード「*」を使用することができます。	—
アクセス日時	より前のデータ	アクセス日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	プラン実行日から指定した期間(日数、週数、月数、年数)アクセスがないリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	アクセス日時の設定を解除します。	—
更新日時	より前のデータ	更新日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	プラン実行日から更新日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	更新日時の設定を解除します。	—
作成日時	より前のデータ	作成日時が指定した日時以前のリストをアーカイブ対象とします。	—
	今から…前のデータ	プラン実行日から作成日時が指定した期間(日数、週数、月数、年数)経過したリストをアーカイブ対象とします。	—
	なし	作成日時の設定を解除します。	—
所有者		指定したユーザーが[ユーザーとグループ]の[<リスト名>の所有者]に追加されているリストをアーカイブ対象とします。	—

設定 ルール **範囲フィルタ**

フィルタリングなし

サイト コレクション

サイト

リスト

名前:

アクセス日時:  ...

更新日時:  ...

作成日時:  ...

所有者:

- アクセス日時



- 更新日時、作成日時



## 第6章 リストアの実行

---

本章では、アーカイブしたデータを元に戻す手順について説明します。

## 6.1. リストアの考え方

リストアには、「低コストディスク移動状態からの復元」と、「論理削除状態からの復元」の2種類があります。DocAve アーカイバでは、スケジューリングされたルールベースのアーカイブ方式により、頻繁に使用されないデータを低コストディスクへと移します。その際、SharePoint 上にアーカイブ済みを表すスタブを配置することで、ユーザーは変わらずデータにアクセスすることができます。また、低コストディスク移動状態のデータをさらにルールに基づいて SharePoint 上から見えなくしながら、アーカイブを行う論理削除を行うことができます。

ここでは、低コストディスク移動状態と論理削除状態の2つの状態からのリストア方法を説明します。

## 6.2. リストアの実施

### 6.2.1. 低コストディスク移動状態からの復元

スタブの実体化画面より、SharePoint 上にスタブが存在するデーターを復元することができます。以下にスタブの実体化の手順を説明します。

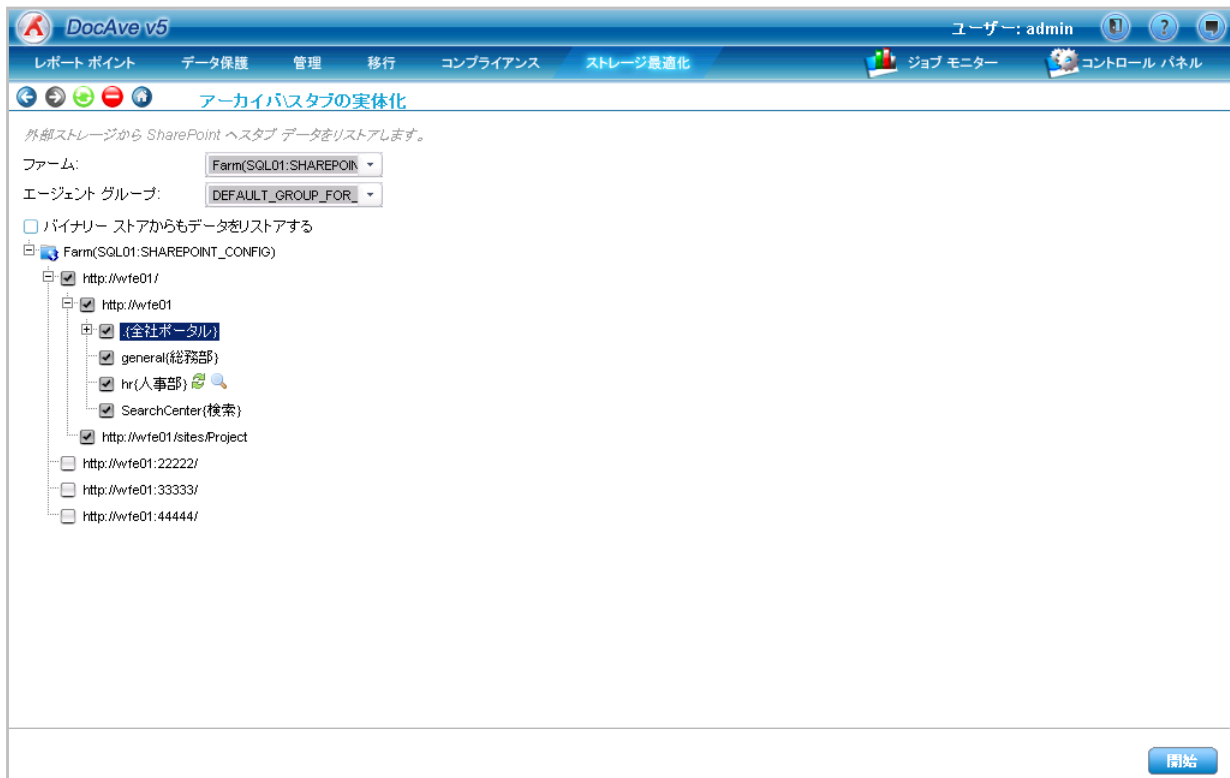
1. 復元する以前の状態を確認する。



2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [DocAve アーカイバ] - [スタブの実体化] を選択し、スタブの実体化画面を開きます。



3. ファーム、エージェント グループを選択し、スタブの実態かを行うデーターをツリーから選択し、[開始] をクリックします



4. スタブの実体化が実行されます。ジョブの状態を確認する場合、[ジョブレポートに移る] をクリックします。



5. 進行状況を確認します。進行状況が 100%になり、状態が完了になるとスタブ実体化の実行は終了です。



6. リストア後の状態を確認する



## 6.2.2. 論理削除状態からの復元

リストコントロール画面より、アーカイブ データーから復元を行うことができます。以下に、アーカイブデーターからのリストAの手順について説明します。

### 1. リストア対象の確認



2. 管理コンソールより、[ストレージ最適化] - [DocAve アーカイブ] - [リストA コントローラ] を選択し、リストA コントローラ画面を開きます。





3. ファームを選択し、リストアするデーターツリーから選択し、リストアの設定を行い、[開始] をクリックします。



項目	説明
エージェントグループ	リストア対象のエージェントグループを選択します。
開始時刻	リストアを開始する時刻を設定します。
リストア オプション	リストア時に、SHAREPOINT 上にあるデーターツリーを上書きするかどうかを設定します。
説明	説明を入力します。

4. リストアが実行されます。ジョブの状態を確認する場合、[ジョブレポートに移る] をクリックします。



5. 進行状況を確認します。進行状況が 100%になり、状態が完了になるとリストアの実行は終了です。



6. 復元されたことを確認。



## 第7章 付録

---

## 7.1. 設計シート

DocAve アーカイバ設定時に必要なパラメータ設計シートです。お客様環境に合わせてご利用下さい。

### ➤ 物理デバイス

項目	設定値
物理デバイス	
バス	
階層	
ドメイン	
ユーザー名	
パスワード	

### ➤ 論理デバイス

項目	設定値
デバイスタイプ	
論理デバイス名	
データ タイプ	
階層	
物理デバイス	
メディア サービス	

### ➤ 保持ポリシー

項目	設定値
名前	
保持期間	
保持期間が過ぎたらスタブを削除	
階層ストレージを有効にする	

### ➤ アーカイブ プラン

項目	設定値
<b>範囲</b>	
ファーム	
エージェント グループ	
<b>設定</b>	
<b>ストレージ</b>	
論理デバイス	
保持ポリシー	
<b>データ構成</b>	
<b>圧縮</b>	
SharePoint エージェント	

	メディア サービス	
	暗号化	
	SharePoint エージェント	
	メディア サービス	
レポート		
	メール通知	
高度		
	スタブ作成	
	SharePoint アイコンの変更	
	"アーカイブ済みコンテンツ"メタデータ列の追加	
	スタブを読み取り専用にする	
	全文インデックスを作成する	
	バイナリー ストアのデータを含める	
	コネクタのデータを含める	
ルール		
	サイト コレクション	
	名前	
	アクセス日時	
	更新日時	
	作成日時	
	所有者	
	テンプレート	
	サイト サイズ	
	スタブの保持期間	
	サイト	
	名前	
	アクセス日時	
	更新日時	
	作成日時	
	所有者	
	テンプレート	
	スタブの保持期間	
	リスト	
	名前	
	アクセス日時	
	更新日時	
	作成日時	
	所有者	
	スタブの保持期間	

アイテム	
名前	
更新日時	
作成日時	
所有者	
最終編集者	
コンテンツ タイプ	
列	
アイテム バージョン	
名前	
更新日時	
最終編集者	
保持するバージョン	
ドキュメント	
ドキュメント名	
アクセス日時	
更新日時	
作成日時	
所有者	
最終編集者	
ドキュメント サイズ	
スタブの保持期間	
コンテンツ タイプ	
列	
ドキュメント バージョン	
ドキュメント名	
更新日時	
編集者	
ドキュメント サイズ	
スタブの保持期間	
保持するバージョン	
添付ファイル	
添付ファイル名	
作成日時	
所有者	
添付ファイルのサイズ	
スタブの保持期間	
範囲フィルタ	
フィルタリングなし	
サイト コレクション	

名前	
アクセス日時	
更新日時	
作成日時	
所有者	
テンプレート	
サイト サイズ	
サイトの割当量のトリガー	
上限	
下限	
サイト	
名前	
アクセス日時	
更新日時	
作成日時	
所有者	
テンプレート	
リスト	
名前	
アクセス日時	
更新日時	
作成日時	
所有者	